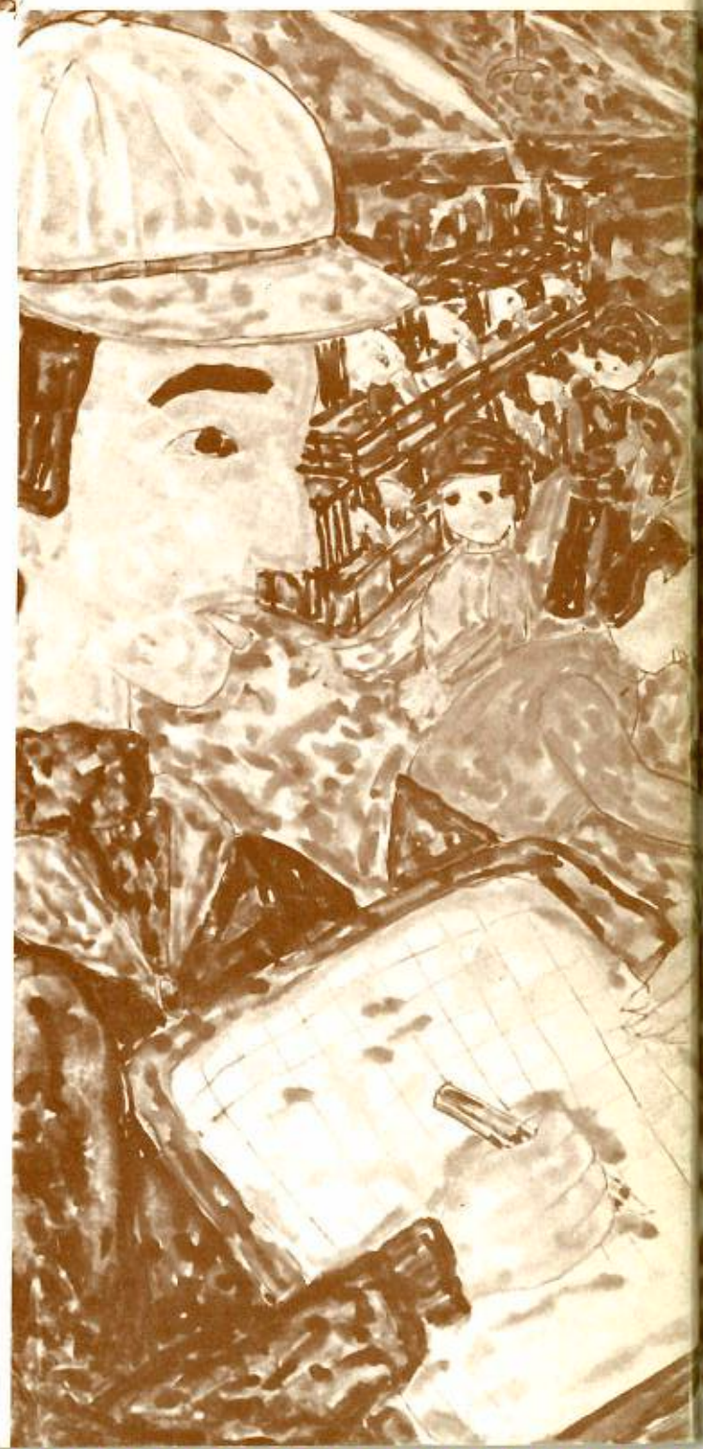
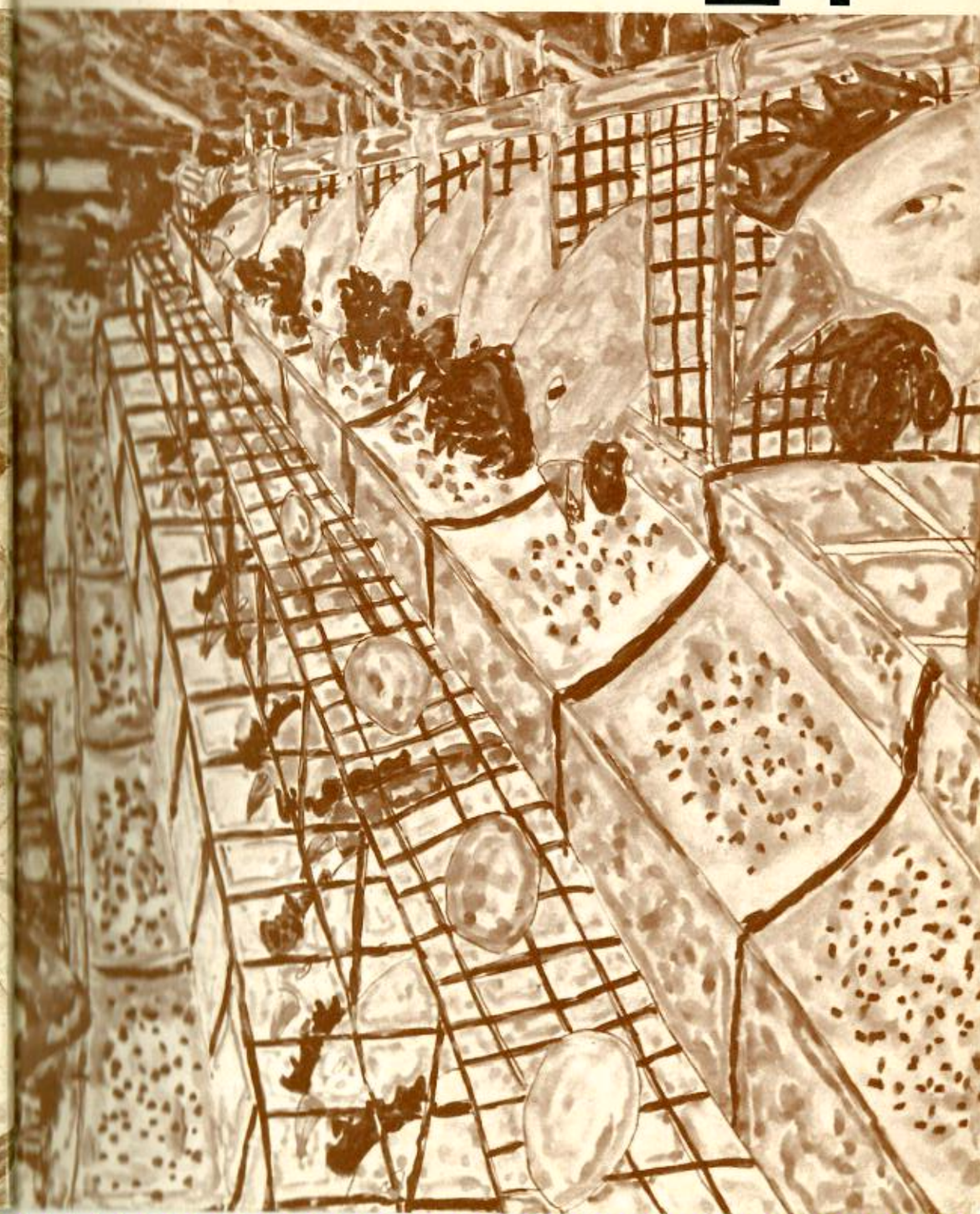
全道造形教育研究大会

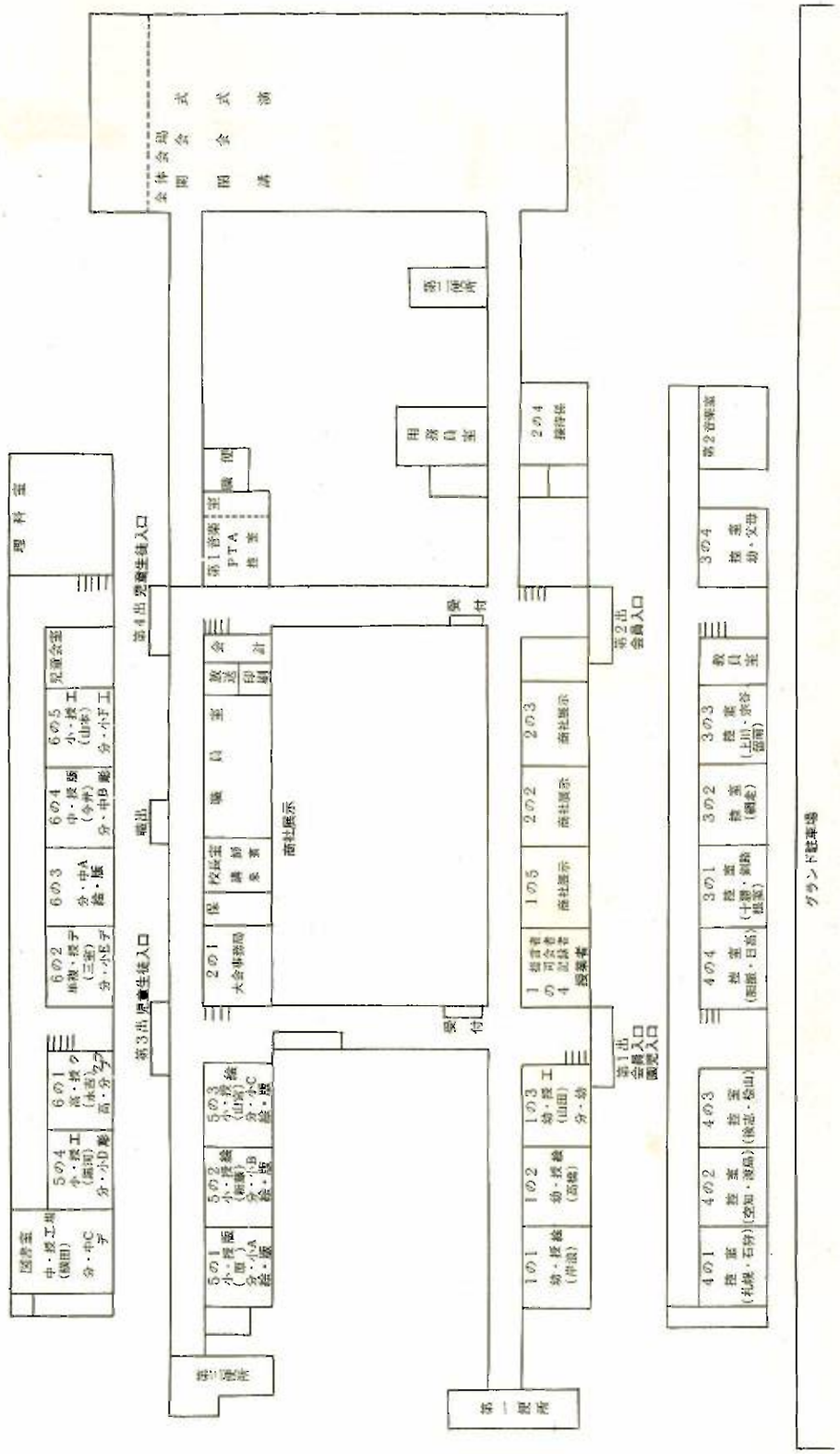
24





大会会場案内図

美幌町立東陽小学校



とびほろ

期　日　1974,7,30～31

主　催　北海道造形教育連盟
　　オホーツク造形教育連盟

開　　会　　式　　7月30日（月）9:00～9:30

○　開式のことば

○　挨　　拶　第24回全道造形教育研究大会長　高　橋　栄　吉

〃　　運営委員長　近　江　幸之助

○　祝　　辞　美幌町長　山　内　正　雄

網走地方教育局長　松　重　節　夫

美幌町教育委員会教育長　三　木　　公

○　講師紹介

○　日程連絡

日　程	8.00	9.00	9.40	10.30 10.40	12.00	13.00	16.00	17.00	19.00
第1日 7月30日(火)	受付	開会式	オーリエーション	特設公開授業	分科会	昼食	分科会		懇談パーティ
第2日 7月31日(水)	受付	分科会				昼食 12.40	講演 14.40	閉会式 15.00	

○　閉会のことば

――――― レクリエーション協力出演 ―――――

第2日（31日）　北見民謡踊りの会

目　　次

- 開　会　式
- 挨　　拶
  - 美幌町教育委員会教育長
  - 大会運営委員長
  - 北海道造形教育連盟委員長 …… 1
- 研究主題
  - 道造形連盟74主題解説 …… 2
  - 造形連盟主題解説 …… 4
  - オホーツク造形教育連盟研究主題 …… 6
- 公開授業一覧表 …… 11
- 授　　業
  - 幼稚園　絵　画 …… 12
  - 幼稚園　絵　画 …… 14
  - 幼稚園　工　作 …… 16
  - 小　1　絵　画 …… 18
  - 小　3.4　デザイン …… 20
  - 小　4　絵　画 …… 22
  - 小　5　工　作 …… 24
  - 小　5　版　画 …… 26
  - 中　1　工　芸 …… 28
  - 中　2　版　画 …… 30
  - 高　校　絵　画 …… 32
- 分　科　会 …… 37
- 記念講演 …… 60
- 閉　会　式 …… 60
- 北海道造形教育研究連盟年次研究主題一覧 …… 61
- 大会役員一覧表 …… 62

ご　あ　い　さ　つ

第２４回大会運営委員会
オホーツク造形連盟委員会
近　江　幸之助

このたび当美幌町において、第２４回全道造形教育研究大会を開催するに当り、全道各地からご参集下さいました皆様に対しまして、心から観迎の意を表するものでございます。
網走地区でのこの大会は第２０回記念大会を網走市で開催以来のことで、長い空白の年月があり、全道の造形教育の発展振興はもとより、特に当網走地区の造形教育の振興を図ることを願いとして第24回大会をお引き受けしたわけでございますが、本大会の開催にあたつて、道造形連盟、美幌町教育委員会をはじめ、各関係機関のご協力ご後援を得ましたことを、ここに改めて感謝申し上げます。

私どもオホーツク造形教育連盟は、この大会が充実した成果が収められるように、計画を進め努力をはらつて参りましたが、短期間であり且又諸事不馴れなため、準備不行き届きな点が多く、ご参加の皆様に不便をおかけすることが多いと存じますがお許しをいたゞきたいと存じます。

当地区におきましては、未来に生きる子どもの造形教育という全道造形教育連盟の大テーマを受け当地区の地域性と子どもをとりまく環境の中から、たしかな表現力をどのように育てるか、という課題に取り組んで来たわけですが、実践の力がひよわく、十分な成果を見ておりません。

皆様の卒直なご批判をいたゞきご指導を賜わりたいと存じます。

そしてそのことが、全道の造形教育の研究交流の高まりとなり、当地区の造形教育の進展と未来へ伸びる大きな足がかりとなることを心から願うものであります。

全道造形教育研究大会によせて

美幌町教育委員会
教育長　三　木　　公

このたび、全道造形教育研究大会が、本町に開催されることになりまして、全道各地から、この道の権威ある先生方の御参加を頂き、まことに喜びにたえません。北海道・道東の辺境のこの地に、全道の教育研究が持たれるということは、恐らく本町開町以来の歴史的なことであり、大きなおどろきと共に感激深いことで、心から歓迎申し上げる次第です。

造形教育の眼目は、美的情操を養うことに尽きるようですが、同時に、創造的表現の能力・技術の啓発も当然に行われねばならぬことでしよう。それらをふまえて、その系統性もまた強く必要とされ他の教科とくらべてみても、多くの様々な問題をかかえているように思われます。

最近、教育目標に、自主性・創造性を高めるということが設定され、それに向つて努力を重ねてきていますが、それを教育実践にどう構築するかとなると、仲々厄介なことが多いようです。「子どもの創造性を伸ばし得るのは、つねに創造活動にたずさわる教師のみである。」という言葉を読んで、或いはこのことは真実であるかも知れないが、現在の教育現場からみると、とても難かしいことだと思わざるを得ません。「創造性」を伸ばすということは、何も図工の教科に限りません。極めて全人間的な問題のようです。ともすれば造形教育の窮極のものは何か。という問いも起り得る問題です。

ともあれ本大会が開催されることにより、本地方の造形教育の水準が少しでも高まることができますれば、これに過ぎる喜びはありません。御参会の諸先生方の御協力により、本当に意義多い研究会でありますよう、心からお願いする次第です。

ご　挨　拶

――― 現代の課題に根ざし　未来へむかう造形教育に ―――

北海道造形教育研究連盟委員長
高　橋　栄　吉

世界の動向は、いま大きなうねりが始まつた。現代の課題。いくつかのからみあいと、ものの価値や心情までの変化をも、もたらしている。

政治の問題でも、その体制の将来性の発展変化の推移と事態を予測できなかねないことや、経済問題においても、資源の限界が重大な課題となり、その質的転換の可能性について模索し、更に、爆発的人口の増加に見あう食糧生産の可能性といつた問題等々、現代の課題をどれひとつとりあげても人間の未来にかかわる重要な課題なのである。

ヨーロッパに成長した近代科学技術文明は果して、人間の幸福にどのように関係があるのか、世界の平和や人間生活の向上にどれほどのかかわりがあるのか。

教育の問題は、これらの課題を抜きにし語ることのできない時代となつた。物質的繁栄の裏に精神の荒廃によつて、人間は、その人格を科学では作れないということを自覚した。

いまこそ、芸術による教育の役割を、これらの社会への警鐘となる仕事を示す時である。学校という役割や、芸術する内容といつたものの洗い直し、知恵を合わせて、未来への人類の夢を創造しなくてはならない。

本大会は、これらの課題を踏まえた上に、よりたしかな内容をより豊かな手だてを通して、子子どもひとりひとりの内側からの開拓を図る具体的な実践の交流を期待するものである。

北海道は、オホーツクから陽が昇る、あけぼのゝ地である。ここに第２４回の全道大会が、開催されるのは歴史的な意味を感じるものである。

きびしい北国の自然の中から、人間のやさしさを生みだし、オホーツクの文化に敬意を表し、幾多の問題と苦労を乗り越えて、大会開催に力強い仲間のきづなを創りあげてきた、オホーツク造形教育連盟の皆さん、それを激励し協力下つた美幌町教育委員会、すべての責を荷つた東陽小学校のみなさん方へ厚く厚く感謝とお礼申上げると、共に今後の連盟の責任と発展への自覚を一層新にしなければならないことをお誓いし挨拶とする次第である。

造形教育連盟
'74主題解読

歴史は、循環をくり返すといわれているが、現在、私たちの前にあるいくつかの問題や課題が、当然将来の問題や課題として、われわれの仕事の上にあがつてくるであろう。

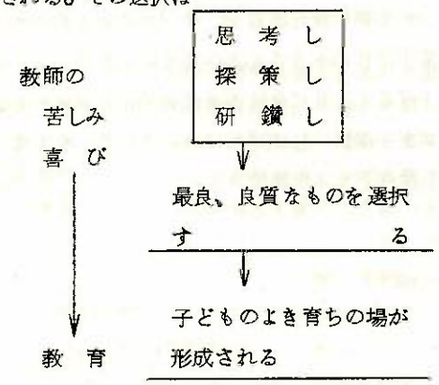
それらを列挙すれば

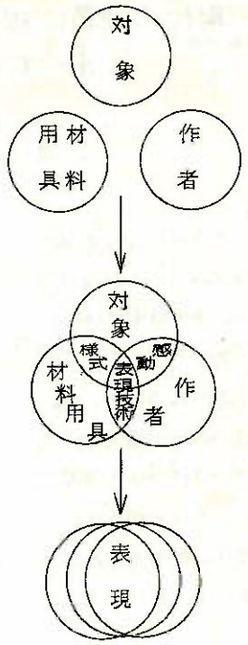
1. 倫理的荒廃の中の人間の問題
2. さらに人間性の内容の吟味
3. 日本の国際的共存の仕事
4. 資源の問題と人口問題

といつたものが当然、教育と共に語られるであろう。

そこに教育の特に造形教育の焦点をあてるならば人間の幸福、生がいといつたものを〝芸術行事〟の意味づけの中に見いだし、それを共有しなくてはならない。

教育は目的々な〝選択という〟ことによつてなされる。その選択は





※ 造形教育は

瞑想をこととする哲学や宗教とも異なる。実験や観察によつて思進を客観に近づけていく科学とも異なる。

※ 造形教育とは

自己の永遠化・たしかに生きている。といつた自己の確めなのである。

それは、美を実現したという願い心に支えられ左図の三つの輪が相より相重なつて自己実現（表現）へと向わせる仕事である。

現場の問題

そこでオホーツクの仲間は、次のテーマをもつている。

1. いきいきとした描画表現
2. 効果的、機能的なデザイン
3. 技能の系統性をおさえた工作、工芸
4. 造形感覚をゆさぶる鑑賞
5. 特殊学級に於ける造形教育
6. 幼児期における造形教育

このテーマから次の問題をみつけだすことができる。

＜1＞ 教材の急所が押えられていない。

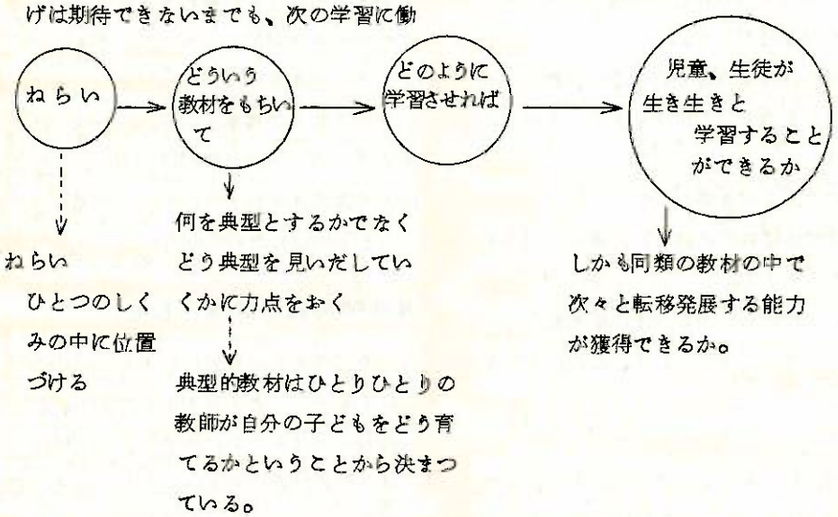
造形教育の学習が作業に走つているということである。題材のもつている内容の急所、中核が明らかでないところからくる問題がひとつ

＜2＞ 題材の転移発展の脈絡がはつきりしない。

論理的な教科のように整然たる積み上げは期待できないまでも、次の学習に働いていく確かさの脈絡はつけられないものであろうか。

＜3＞ 子どもに即した指導の手だての研究の不足

指導法は、その子どもにぴつたりしたものであつてこそ、目のさめるような反応を示すのである。 このくふうの欠除は惰性を招くのである。



※ 中2、静物、中核＜器物などを教材とした緊密なバランスのある画面＞

- ○ 発想（見る力）器物やくだものなどの関係的な見とり
- ○ 構想（構成する力）画面の緊密なバランスの組み立て
  - ① 画面に中心をすえる力
  - ② 画面の組み立ての見通しを立てる力
  - ③ 単純化と強調化ができる力
- ○ 制作（追求する力）となり合う色が互いに響き合う緊張した画面
  （表現技能）木炭で試行をくりかえした構想豊かな画面構想

の三つの力が1年から3年までの題材で脈絡をうけ、系統づけられなくてはならない。

造形連盟主題解説

造形の本質

図工、美術科の学習の質の深さをめざす研究にむかつて、ひとつ論をすすめることにする。
いままでの連盟の研究のつみかさねの中から

イ、図工、美術のねがいはなにか

ロ、ひとつひとつの教材の価値、よこやたてのつながりはどうか。

ハ、よりよい指導の確立の必要性、教科の価値の確認を含め、方法をも含めた内容の再検討

ホ、題材のあるべき姿の設定

といつた問題が積極的に語られ、多くの実践を生んできたのである。
そこでそれを整理しながら今後の造形教育への展望をひとつひとつ提言として、ここに主題解説をかくことにする。

図工、美術科の本質

絵をかき、ものをつくつていくことが、なぜ美的情操につながるのか、それはわかつているようでむずかしい問題なのである。
主体が花を見て美しいと感じたとき、主体の中に像が結ばれる。その像はしかしゆれうごくものであり、やがて消え去るものだ。絵にかきたい、つくりたい心はその像を永遠たらしめたいと願う心から発していく。その像は自己の内部に結ばれるものであるから、自己の永遠化ともいえる。〃たしかに生きている〃という自己への確めが美術、図工教育の本質であると考えるさて、永遠たらしめるためには観念の世界ではだめである。色や筆という用具材料が必要である。しかしその色はイメージにぴつたりしたものでなければならない。材料と作者がイメージを媒介としてかかわりあうところに技術を必要とするのである。
さて、その技術によつて色がつくられたとしても画面での統一には追求の精神が必要である。さらに不一致の追求の連続作用が作者の精神を純粋にしていく営みである。

このイメージ、技術、追求心こそがわたしたちが願う図工、美術科の本質であるとしなければないか。

いま本質的正しい解釈をもたないかが、毎日の仕事が非連続的で、うすべらなものになつてしまうのである。

連盟の指導の構築という　テーマはその三つをどう指導の中に位置づけ目の前に価値の伝達創造を図るかをひとりひとりの力量を交流しあうことを目的したのである。

具体的実践の方向として

1. たくさんある題材に軽重をつけることのみに力量そそぐことも大事であるが、ひとつの題材に即することに併せて、各領域題材に共通なものはなにかといつたものを考えることである。例を描画にあげるならば
   (イ) 対象を見ること。
   (ロ) それを構成することであり
   (ハ) 制作追究することである。
   この段階のあるべき姿を典型として示してることが、本年度の研究の大きな課題である。
2. それらの視点が定まつたならば、実践研究のなかで。子どもの実態にてらし、身につく学力に至る手だてがつくり出されると考える
3. それは多くの型として「条件の学習」が試られたのもそのためのものであつたと考える。目先の変わつた学習をするというのでは子どもの本当の力にならない。

これを平易にかくとしたら（小学校むけに）

- 色や形で語ることをよろこぶ子になる
- 自分の色や形をつくろうとする子ども
- 色や形を自分の心でみとる子ということになる。

見るということの内容

(1) もの見方が感じ方が自由であるということ。

(2) この自由な目と心があるからこそ彼らの視覚体験は心象的なかかわりがある。

(3) 自由な見方、感じ方と心象的なかかわりのある視覚から、現実的でない色や形の中にリアリティを表現するのである。

このように想像や空想が自由にはたらき、非現実の色や形の中に自分の生活を表現するという想像世界と現実世界とが相互にかかわりあつて自己のリアリティを＜見る＞のである。これが低学年の＜見る＞ことへのひとつの大きな内容であると考える。　だから想像のはたらきかけをし、新しい世界を生みだしていく力を教師は沢山用意しなければならないということである。

見ることを伸長させる手だて

観察することも大切であるが、むしろ想像や空空想のはたらきを意図的に導き出すことである。

必ず、子どもが反応してくるであろうと予想できる想像へのアイデアをもつて、子どもに刺激を与え、子どもの反応に対応し、対処いく方法開拓が一層のぞまれるのである。

「子どもたちが自然の外観の後にかくされている基本形式を習得するまでは、子どもたちにでたらめな外観から絵をかくことを許すべきでない」　フレーベル・恩物教育

図工、美術の教育も人為的な方法によらず、児童、生徒のひとりひとりが自己のまわりの自然や文化、社会など外界と呼ばれるものの諸現象と相互にかかわりながら、美しい内容や形態に変化させる能力が得られたり、あるいはまた、ものを作つたりする相互関係の中で美しい内容や形態に変化させる能力を得ることができるならば、いいかえるならば自然学習の中で多くの経験を会得して行動変容を起し、自分たちのまわりにあるひとつひとつの問題を解決できる力が高められていくならばすばらしいことであるが、現実には子どもたちは過去の文化遺産を受けつぐこと、新しい未来を切り開くことを、自然にしかも十分に、だれの力も借りずに身につけることは不可能である。

だからこそ、美しいもの、美しくないものをみる力、判別する力を引き出す視点の欠如からの脱出をしなくてはならない。
ひとりひとりの指導者が自分にあつた情報や視点をもつて切り込んでいかなければ対象の中にあるものはみることができない。

え心とイメージと
それをつなぐ
　　腕前をたしかに
育てあげていくには
　　いま私たちは
なにをしようとするのか
それをのぞいては　本物は生まれない。

研究主題

――――たしかな表現力をどのように育てたらよいか――――

オホーツク造形教育連盟研究部

私達の研究のあゆみ

私達オホーツク造形の仲間が過去5ケ年の仕事を今、謙虚にふり返つてみて、目の前にいるすべての子ども達が、描いたり、作つたりすることに本当に喜びを持ち、本気になつて造形課題に向つて取り組めるように、どれ程育てることが出来たかを考えてみるとき、内心いさゝか恥入る思いである。

たしかに、絵のうまいこどもがいくらかは育てられた。ものをつくつても器用にまとめる子どももいないわけではなかつた。しかし本当の造形教育とは、なんであるか。教師の良心にかけて、彼等の未来に何を安心してゆだねることが出来るかを考えるとき、私達の今までの仕事は如何にも底が浅く甘かつたといわねばならない。

この地域の子ども達が、宿命的に通らねばならない学校教育のなかにあつて、私達は、課された教育の使命を骨のずいまで感じとり、読みとり堀りさげて、この教科の役割りを両手でがつちり受けとめ、彼等に十二分な能力を付与してやつているだろうか。

子ども達の未来に対して確信をもつて、私達教師の仕事が営まれているならば、彼等の将来に豊かで潑剌とした心情、生活をきり拓く高い精神と技能、生き甲斐ある創造的人生がたしかに保障されていなければならない。今の私達の仕事を推量的に未来に連続させるとき、今、やつている仕事ぶりの中に、実りある未来に向けた播種と施肥が着実に行なわれているはずである。

小さな盆地が断続して連なり、何百という谷間の続くこの地域は、三つの小都市も含めて辺地校と小規模校を数多く抱える小さな町や村の点在である。五年前、私達は、ここに生まれ、ここに生きる子ども達に最大のものを与えたいという悲願から、谷間を越え盆地を縫つて呼びかけ合つてきたのである。　全く遅々とした歩みではあつたが、除々に目覚めた連帯意識と、教科の重量感の中から、私達は先ず陥没した「表現力」の回復を考えたのである。なぜなら、すでに子ども達の心は乾いていたし、その手は悲しく小さくいじけていたからである。恵まれた豊かな自然にとり巻かれているのに、彼等の色感は逆にどろんと淀んでいた。幼児達は描いたり、つくつたりすることへの魅力を喪失しかけていた。たまに喜んで描くことは無気力なテレビ漫画の絵であつた。この火山灰と酸性土壌の地帯は、造形能力まで不毛の危機にさらされていたのである。

それでは、専門職とまでいわれる私達教師は何もしていなかつたというと、そうではなく、むしろなんでもしていたのである。

かつて、私達は15年前に網走に集まり、全道の仲間とともに数多くの問題を語り合つて燃えた時代があつた。しかし氾濫が流れを変え肥沃な耕地を奪い去つた如く、私達もまた多くのよきものを失いかけていたのである。何を、どの方法によつて、どこまでという、計量や測定にかけていたし、重さと広さのたしかめが素通りしていたから、系統と関連、段階と発展、子どもの未来社会に対する確固たる見通しに暗かつた。ここに私達の仲間は、お座なりでは何も育たないし、育てられない、それは労力と時間と経費の無駄使いに過ぎないことを深く悟つた。

私達の提案と課題

1. 表現力、すなわち表現するエネルギーとなるものは何かをたしかめること。

(イ) 幼児期の「かいたり、つくつたり」することが好きになることを出発点として生活のなかから常に能動的に発見し、感動し、制作や創造への意欲を燃やしている人間こそ、自らエネルギーをつくり出し、そのエネルギーの燃焼に更に大きなエネルギーを誘発して炸裂させる。感動こそ表現のエネルギーではないか。無邪気にびつくり出来る人間は素晴らしい。感動のある人間―誠実で見落しのない細やかな神経と、柔軟で粘り強い気力と、虚心無我な雅量と、如何なる障壁にも動じない剛気さを具えた人間、私達は一見矛盾のような人格の要素が調和しているこの「感動する人間」を育てなければならないと考えた。

(ロ) それでは感動する人間は如何に育てるかは、私達のこれから課題であり、全道の仲間の支援に待たなければならないが、假説として次のことが考えられる。子ども達をとり巻く環境のなかから、少しでも値うちあるものを気づかせ、意識化させる「感動の訓練」が必要であると考えた。痛みや驚きや、美しさを常に語りまた語らせることである。幼児期に見られるように、彼等は感ずることから認知し認知したもの―意識化や認識化されたもののみ立派に描いたり、作つたりするのである。

(ハ) 想像力を駆りたて創造の原理へ向けさせていかねばならない。感動はリアルな世界のみに存在するのではない。自己の中に世界があり、今の中に過去と未来が把握されるように、私達は現実の中にあつて、常に想像や空想が去来しているのである。そのスケールや色合いは人間模様の綾となるであろうが、想像力の乏しい人間は石のように冷たく悲しいものではないか。

豊かな想像力は、限りなく人類の生活圏を広げてきた。　物質的な豊かさも、精神的文化遺産も想像から生まれ創造されてきたのである。　想像することは創造することへの橋渡しではないだろうか。これも又今後に実践と吟味が課題となることである。

2. 表現する手段としての技能的訓練を十分に与えること。

(イ) 意欲があつても方法の見通しがたたなければその意欲は不発に終らなければならない。描きなさい、やりなさいという楽天的指導は最高教育でもないし技術とは伝えない。しかしだからといつて方法や技能オンリーで進めるなら幼稚園や小学校低学年の発達段階では「角を矯めて牛を殺す」の愚に陥ることは明らかであろう。個に応じ、発達段階に応じた系統化が必要である。およそのものは既に多くの研究の中に明きらかにされているが、それは一般的な事柄である。私達が願う技能的訓練は、より創造的に、より的確な表現を展開するみちすじである。

「発想の展開」「感動の具体化」「観察の方法と訓練」「材料や題材の適確な選

択」などを、もつと分析的に、段階的に、究めたいのである。イメージが目標や課題の追求に向つて制作の行動化が開始されるときから、子どもも教師も満足する。完了をみるまでのプロセスを技能的訓練の段階の中でどのように抽出して与えるかを整理したい。技能は形式化した一応のパターンを持つであろうが、これ等を薬籠中のものにして自在に駆使出来てこそ真価を発揮するものである。

高い視野に立つた的確な技能は何か、何時、どんな方法で与えるかを私達は今後も探究を重ねていきたいし、全道の仲間達の惜しみないご協力を得たいと考えている。

学習指導案

主　題

未来に生きる子どもの造形教育

――――たしかな表現力をどのように育てるか――――

公開授業一覧表

学年	領域	題材	授業者	勤務校	学年	領域	題材	授業者	勤務校
幼稚園1年	絵画	おともだちのかお	岸浪　睦子	美幌幼稚園	小　5	工作	花（きりえ）	黒河　洋輔	美幌東陽小
幼稚園1.3年	絵画	おさかなをかこう	高橋真知子	美幌幼稚園	小　5	版画	工　場	原　　弘	美幌東陽小
幼稚園2.3年	工作	すいぞくかん	山田　初恵	美幌幼稚園	中　1	工芸	土の鈴	横田　勇吉	小清水中
小　1	絵画	どうぶつをかこう	山宮　喬也	美幌東陽小	中　2	版画	山園の四季	今井　竜男	東藻琴山園中
小3.4	デザイン	もようをつくる	三宅　良平	美幌都橋小	高　校	美術クラブ	人物画	永吉　正彦	美幌高校
小　4	絵画	友　達	新藤　　勇	美幌東陽小					

ともだちのかお

美幌幼稚園
1年年少　30名
指導者　岸浪睦子

1　教材観

子どもと過ごした、3ヶ月の幼稚園生活の中で、何度か絵を描くという経験をしましたが、描かない子ども、いつも同じような絵を描く子どもが、何人かいます。

子どもが物をみて、感動を受けたり、興味を感じたり、強い印象を受けたものほどよく質問をし、それを指導者や親が説明してあげる、それが子どもの心の中にとまり、やがて絵を描く経験の時に生きてくるのではないでしょうか。

園児たちが喜んで描いたり、つくつたりするために指導者や親は、その経験に対しての励ましが必要であると思います。

子どもたちは、始めて経験する集団生活にもなれ、最近多くの友達をつくり、一緒に遊んだり、けんかをしたりしだんだん親しみを深めていつています。

「おともだちのかおを、かこうね」という指導者の課題提示から出発して、自分の顔、他人の顔から顔の各部分を確かめ、日頃仲良く遊んでいるともだちの顔を、喜んで描かせるようにしたいと思い、この題材を選んでみました。

2　目　標

(1)　「かお」の各部分をよく観察し、たのしんで絵をかく。

(2)　紙や用具に慣れさせ、のびのびと表現させる。

3　準　備

(1)　画用紙（八切り）

(2)　ラツションペン、クレヨン、パステルなど

4　展　開

	時間	こどもの活動	主な発問と助言	指導上の留意点
導入	10	・朝のうたをうたう。（おはようのうた）	・朝のうたをうたいましよう。	
		・あいさつ	・朝のあいさつをしましようね。	
		・出欠（人数調べ）	・お名前を呼びますから、元気にお返事をしてください。	・出席数のたしかめをする。
	15	・〃ハナ　ハナ　ハナ〃（ことば遊び）をやる。	・みんな幼稚園にはいつたころに、〃ハナ　ハナ　ハナ〃というのやつた覚えてるでしよう。	・覚えている。
			・やつてみようか。	
			・先生がやるのを、よくみてよ。	
		・かおに触れながら、各部分の特徴を考えていく。	・みんなまちがわずにできたかしら。どおだつた。	・まちがわなかつた。
			・かおのなかには、いろいろなものがあつたでしよう。	・髪、まゆげ、目、鼻、口、耳
			・何があつたのかしら。	
			・目をつぶつたらどうなる。前にすわつているお友達みえるかしら。	・みえない
			・鼻はどんなかたちをしているの。	・あながある。
			・耳をおさえるとどうなるかしら。	・何もきこえない。
			・口は何をするところかしら。	・おはなしをしたり、ごはんをたべたりする。
			・それじやみんなのとなりや前にすわつているお友達が、おなじようになつているかどうか、みてごらんなさい。	・なつている。
		・ともだちの絵をかく。	・きようはね、みんなで自分の前に座つているともだちのかおをかこうと思うの。	・画用紙を用意する。
表現	15	・絵をかく	・線でおともだちのかおを、かいてみましよう。	・ラツションペンを用意する。
			・おともだちの顔に何があるかよくみてかきましようね。	・かおの形をよくみる。
整理	10	・おともだちの作品をみんなでみる。	・みんなとてもじようずにかけたわね。	・工夫や努力したところを認めてあげる。

さかなをかこう

美　幌　幼　稚　園
1年　　21名
3年年中　　7名

指導者　高　橋　真知子

1　教材観

子供達は毎日の生活の中で、すべての機会を通し、色々な方法をもつて見たこと、聞いたこと、知つていること、感じていること、考えていることなどを表現しようとしています。
ことばによる表現、絵画による表現、からだの動作による表現はすべて、ものを見るという事から始まつているのではないでしようか。
園の庭に咲く花、飛び舞うちようちよう、足元をはい回る小動物等、身近な自然を自分自身の目で見つめ、確かめる事によつて、興味や関心を持ち知ろうとしています。
子供達がものを観察し、それを表現しようとするまでには、発見のよろこびと驚きがあり、ものに触れ、匂いをかぎ、なでたりしながら、考える力や感じ取る心が育ち、それを表現した事によつて認識がいつそう確かなものとなり、子供達の心に強く残つていくと思います。

今日は先日行なつた、網走水族館親子見学の経験を通して、その子なりに見て来たもの、新たに知り得たもの、感じたものを生き生きと表現し、魚のからだの認識と、又興味や関心がいつそう深まつてほしいと思い、この題材を選んでみました。

2　目　標

(1) 見て来た魚を、たのしく生き生きとかく。
(2) 経験によつて感じた、魚の色や形をかく。

3　準　備

(1) 画用紙（八ツ切り）、パステル、クレヨン、ラッションペン

4　展　開

	時間	こどもの活動	主な発問と助言	指導上の留意点
導入	10	朝の歌 「う　み」 「お早ようの歌」 出欠 水族館で見て来た魚について話し合う。	朝の歌をうたいましよう。 大きな声で元気に返事をしましようね。 お休みに入る前に、みんなでバスに乗つて水族館へ行つたわね。 水族館の中には、たくさんの魚がいたでしよ。 どんな魚がいただろう？ どの魚がおもしろかつた？ どんな泳ぎ方をしていただろう？ どんな色をした魚がいただろう？ 魚のからだつてどんなだつたろう？	 お当番さんに出てもらう。 休んでいる子供の確認。 見て来た魚の名前を上げる。 印象に残つている魚の様子。 ひれを使つて泳いでいる事に気付く。 魚にも色や模様がある事に気付く。 目、口、ひれ等魚によつて違う事にも気付く。
表現	20	さかなをかく。	水族館へ行つてたくさんの魚を覚えたわね。 みんなで魚をかいてみようか。 線で魚の形をかいてみよう。 クレヨンで色や模様をかいてみよう。 よく思い出してかこうね。	 ラッションペンでかく。
整備	10	出来上つた作品をみる。	みんなのかいた魚は、どんな魚かな？	よいところ、よく見てかけたところを、みんなと話し合う。

すいぞくかん

美　幌　幼　稚　園
2・3年年長　31名
指導者　山　田　初　恵

1　教材観

幼稚園生活の中で、物を見たり、描いたり、作るという経験をするわけでありますが、その中でいつも同じ絵を描く子が多く見られ、「かたち」を作る時、それに似た「かたち」「もの」を提供しないと作れない、ハサミで切ることができないという子が見られることにも気づきました。この原因を考えてみると、立体的なかたちを作る場合、あまりにも「かたち」を与えすぎる傾向にあるのではないかと思います。そして、頭の中でのイメージと表現力がともなわない。どうも「かたち」の様に作れないという様に、生活環境の中で上手にできないという概念があると思われました。

「お魚をつくろう」といつた場合、かくことは好きだが、マスコミ、テレビに人気のある魚に、あるいは漠然とした「さかな」で終つてしまう場合が多いものです。そこで「よくみる」、「さわつてみる」、「かんがえてみる」という、3つの経験を通して、頭の中でのイメージと表現が少しでも結びつき、つくる喜びが少しでも多くなつてくれればと思いました。

そこでこの時間は身近に経験できる水族館見学ということで見たことのあるものを、「作る」よろこびとしてさかなを、元気一杯に泳がしてみることにしました。そしてこの機会を大切にして、今後の観察の経験を通してもつと作るよろこびと、幼児の心の奥底にひそむ造形的な表現意欲を高めるとともに、これをじゆうぶん満足させながら、造形的な表現を通して豊かな個性の形成に役立つことができたらと思い、この題材を選んでみました。

2　目　　標

(1) たのしんで、生々としたさかなを作る。
(2) たくさんの種類などが出て、それぞれのびのびと作る。

3　準　　備

(1) パステル
(2) はさみ
(3) 画用紙
(4) セロテープ

4　展　　開

	時間	幼児の活動	主な発問と助言	指導上の留意点
導入	5	朝のうたをうたう 出欠 曜日の確認	朝のうたをうたいましよう。 大きな声で返事をしてみましようね。 今日のお当番さんは、誰かな？ 今日は何日か、うたつてみようね。 きようは、みんながきのう一生懸命ぬつてくれた水そうを持つてきました。	出席数のたしかめ。 みんなで作つた水そうを見せる。
	5	魚作りへの話し合い	きようは、お魚を泳がしてみるんだつたね。 色々なさかなが、たくさん泳いでいたね！ それじや、みんなが作つてくれた水そうで、たくさんの魚を泳がしてみよう。	水族館で見た魚を思い出させる。
表現	20	魚作り	かたちをよく考えてからかこうね。 できたお友達から、ハサミを取りにいらつしやい。	魚のかたち、色などを確認させる。 早くでき子から、セロテープで張つてあげる。
整理	5	後かたづけ 出来上つた作品を、みんなでみる。	みんなのお魚、うれしそうに泳いでいるね。 今日はクレヨンで作つたけれど、こんな作り方もあるよ（異なつた作り方の魚をみせる）	他にも色々な魚の作り方があることを知らせる。

どうぶつをかこう

「牛」

美幌町立東陽小学校
第1学年2組　37名
指導者　山　宮　喬　也

1　題材について

これまでの学習では、日常のくらしの中から題材を求めて、主として、経験した事や見た事を説明的に表現する事が多かつたが、圧倒的な大きさや重量感、スピード感などから受ける感情的な高まりを表現する場面は、ほとんど無かつたといえる。

それに類することとしては、遠足の折に公園に展示されていた蒸汽機関車を意図的に強調して見学させてみたが、帰校後の作品では遠足の情景描写に終始してしまい目的に触れる事はできなかつた。

今回も再び展示してある蒸汽機関車を取り上げてはどうかと考えたが、既に動くことを忘れてしまつた「置き物」の蒸汽機関車では目的とする感情の高まりは望めないと考え、自らが動く意志を持ち、かつ重量感の溢れている牛を取り上げてみようと考えた。

しかし、農村に囲まれたこの地域の子ども達ではあるが、校区が市街地という事もあり、更に、近隣の農家にあつても、牛を飼育する農家が少ないことなどから、子ども達が牛に接触する機会は非常に少なく、教室にあつて、経験をもとに表現するという事は不可能に近いと考え、全員を農場へ連れて行き、実際に牛を見るという経験の中で目的を達したいと考えた。

2　学習の目標

牛の持つ大きさや重量感を感じ取りながら表表現させる。

3　指導の計画

牛を観察しながら、感じたことも加えて表現する　　2時間
かき足りない部分を補つて仕上げる。友だちの作品を見る　　本時

4　準　　備

絵具（個人用・共同用）筆、クレヨン、フエルトペン、筆洗い、新聞紙、その他

5　本時のながれ

	な　が　れ	学　　習	留　意　事　項
導入	学習内容の確認	・前時学習の想起 ・本時学習内容の確認 ・注意事項の確認	本時につながるように想起させる。 本時の作業をはつきりさせる。
展開	かき加えて完成させる	かき足りない部分を補う	水、パレット、筆の汚れに気をつけさせる。絵具の量や表現の工夫などを机間巡視の中で個別指導する。
	作品について話し合う	友だちの作品を見る	自分の絵や考えたことと、友だちの作品をくらべるようにする。
まとめ		次時の予告とあと始末	

もようをつくる

美幌町立都橋小学校
第3学年　5名
第4学年　4名
指導者　三　宅　良　平

1　教材観

へき地小規模校という教育的環境は、子どもたちにさまざまな影響を及ぼしている。そこには知識量の減少、主体的思考、行動力の不足、自然環境を生かす生活適応の欠如、人間関係の不調和等の実態が見られる。

これらのことは、造形教育にも大きく影響し、美しい自然に囲まれながらその美しさを感じとる力を失い、集団思考による触発がなされないために、物の見方、感じ方も深化せず、鋭い知覚が得られない。また、コミュニケーションの単調さは、思考していることを相互にぶつけ合い検証していく機会を少なくし思考に深まりがなく、発想も平板に終つてしまう場合が多い。そして人間関係の不調和は、楽しい雰囲気の中での授業の姿を失い、教室に活気がなく、創造性を養う造形教育の本質とは次第に遊離していくのである。

加えて、複式という学習形態の中にあつて、学年差、能力差のある児童を同時に指導しなければならない。

このような現実の中から造形教育を通し、創造性の啓発をしようとするとき、まずもつて、造形活動の基本的能力としての美しさを感じとる力を養い、創造的思考を深めていく必要があると考えられる。

そのためには、現に与えられている子どもたちの生活の場としての自然に着目し、それを積極的に生かし、自然の造形に目を向けさせてやりたい。自然の事象をよく観察させること、美しさを発見させること、そして、それを表現する活動の中で高めていきたいものと考えている。

そこで、子どもの身近にある花や虫、やさいなどから自然物の造りもつている造形要素を見つけ出し、それをもとに、平面構成における空間というものを感じとらせてみたい。

子どもたちが環境の中から美を見つけ、おどろき、その感動やよろこびをいつも大切に表現していこうとする意識は、それらを生活の中に生かし、より豊かな生活をつくり出していこうとする態度にほかならない。

このような考えから「もようをつくる」を設定し、基礎的な構成と色彩の学習を計画した。

2　目　　標

形や色をくふうして美しい構成のもようをつくり、基礎的な構成についての理解や色彩感覚、配色の能力を高めさせる。

3年・つり合いのとり方、リズムの美しさに気づかせる。
　・色には寒暖の感じのあることを感得させる。

4年・全体の構成を計画的に考えて行なうようにさせる。
　・色彩の明暗を理解し個性的な配色をくふうさせる。

3　指導計画

(1)観察、アイデアスケッチをする——1時間
(2)スケッチをもとに構成する
(3)鑑賞する　　—2時間

し模様の原則を知る
4年　自然物から規則性を見出し、特徴を単純化、強調化して表現する力を育てる

4　本時の指導

(1)目標　3年　自然物からくりかえしの線や、リズミカルな形を発見

(2)準備
色画用紙・新聞紙・色紙・えのぐ・はさみ・フエルトペン

(3)展　開

学習のすじ道	学習内容	時間	学習活動	主な発問と助言	児童の反応と方向づけ
イメージの形成	主題の確認をする	5	もようを書くことを知る	・きようは、スケッチしたものをもとにもようを作つてみよう	・スケッチしたものからもようをつくるのだな。
造形の思考	条件の理解	10	模様の原則を理解して考える	・前の時間スケッチしたものを出して下さい ・みんなのスケッチした花や虫のどこが美しいと思いましたか ・それでは同じ形や線やきまりよく並んでいることに目をつけて、どんなもようを作るか考えてみよう。 ・4年生はもつとかんたんにしてみよう。（机間巡視）	・同じ形がならんでいる ・きまり正しく並んでいる ・だんだん大きく（小さく）なる ・リズムを考えて作るのだな ・ぼくはこんなに作ろう
表　現	条件に合つた形を創作する	30	効果的なもようを考えて表現する。	・それでは大体まとまりましたか。 ・どんな材料を使つて作るかきめて下さい ・材料がきまつたら作つてみましよう。 ・どの色を使つたらよいかきめましよう。 ・暖色と寒色、明色と暗色をどのように並べたらいいでしよう ・よごれないように、ぬつたりはつたりしましよう。	・絵具でかくかな ・色紙を使つてみるかな ・ソフトペンを使つてもいいですか ・ぼくはこの材料を使つた方がいい ・指をきれいにふきます ・こすらないようにします
整　理	形の美しさに気づかせる	5	学習結果の話し合い	・よかつたところ失敗したところはどこですか	・むずかしかつた ・よくできたと思う

友　だ　ち

美幌町立東陽小学校
第4学年　40名
指導者　新　藤　　勇

1　人物画の指導にあたつて

観察の目的が、対象とのかかわりあいの度合や方向によつて、形式的な概念形式をしたり、思考過程がバラバラであつたりではならないし、部分にのみ目が向けられ、部分部分を表現したところで、対象の全面的な認識にはならないだろう。

学級内における強いなかま意識が出てき、客観的なものの見方に興味を示し、そのような行動や表現を見せるようになつてきたこのころの児童のかく人物画は、友だちの中に、概念的な無表情な表現ではなく、特徴的なものを発見させ、より確かに生きている表現をさせるために、大変重要な題材でもある。

2　題材でのねらい

(1) 教室での友だちをモデルにして、その姿勢や部分に注意しながら確かな線と色で表現させ、人物表現の力を高める。

(2) からだの各部のバランスや表情など、それぞれのもつ色合いの違いなどに気づかせる。

3　指導計画

- 第1次　めあてと条件を知り割りばしペンで表現する。
- 第2次　線に気をつけ、ていねいによく観察して着彩する。
- 第3次　表情や色合いによく注意して着彩する。　（本　時）
- 第4次　画評会をやり、作品からの反省をする。

4　指導過程

順　序	教師の活動	子どもの活動	留意事項
表現めあてを明確にする（導入） 色でかく。	題材を板書し前時学習をたしかめさせる。 ◎　混色条件を板書して、はつきりさせる。 ◎　色でかかせる ・小筆の使い方 ・色がにごらないように個別指導をする。 ◎　仕上げの段落で個別指導をする。 ・色の使い方がまずいところ等	前時の学習をたしかめる ◎　色のやくそくを確認する ・特に顔、髪の毛に近い色を考えてかく ・かいた線を考えてかく ・あまり線を消さないように ・大切な線に気をつけて ◎　形どつた線に気をつけて色でかいていく ・色を少しづつつくる ・絵の具の水が多くならないように ・まわりの情景も大切に ・水をとりかえる ◎　できたら教師におしえる ・くふうしたところ、これからやろうとしているところ ・失敗したところ等	・特に顔色の場合べたぬりをしないで ・髪の毛は平板なぬりにならないように ・自分のすきな色が出なかつたらパレットでもう一度つくりなおさせる。 ・水は筆洗用と絵具をとく水とを用意する。

切り絵「花」

美幌町立東陽小学校
第5学年　38名
指導者　黒川洋輔

はじめに

「切り絵」がもつている、おもしろさや味わい、ユニークな過程を体験させることにより、図工科に対する関心と意欲とよろこびを喚起させ、更には広い意味で造形能力を高めるための一方法とした。

1　教材観

6月カリキュラムの中で「花」をとりあげている。この観察画指導の中で物事を正しくみ、正しくとらえ、それを表現する力を養つてきた。それを「切り絵」の中で生かしながら「花」のもつ美しい感じを白と黒で表現してみる。児童が「花」に対してもつているいろいろな造形的感情をするどい刃物でたくみにカッティングすることにより線や面の学習を深めたい。一本の線を境に白と黒に分割しながら技法的な取り組みに「花」はきわめて容易であると考えた。更に亦季節的にも生活環境の上からも児童と「花」とのかかわり合いが深いこともみのがせない。

2　指導計画

下絵をかく……1時間
切り絵をする……2時間（本時2/2）
作品をつくる……1時間

3　目　標

- 切り絵のおもしろさを味わいながら楽しんでする。
- 思い出の花を切り絵で表現してみる。
- 切れ味をたしかなものにする。
- 白黒の表現になれ、細い線をじようずに残す。

4　準　備

カッターナイフ、カッター専用マット、コンビカラー、画用紙、くず入れ、OHP

5　展　開

時間(分)	学習内容	学習活動	指導上の留意点
5	主題の確認	• 学習の流れをつかむ • 「花」について発表する • 用具の点検をする • 「切り絵」のやくそくをする	• 反省と発展に留意して発表させる。 • 自分と自分がえらんだ花とのかかわり合いについて気持をのべさせる。 • 題題材に愛着を持たせるようにする。 • 刃がまめつしてないか、くず入れの用意などを点検させる。 • あらかじめ学習してあるやくそくを確認させるだけにする。
15	表現活動	• 切る	• 下絵を大事にしながらも、カッターで絵をかくつもりで切らせる。
10		• 中間批評会を持つ（OHP利用） • たしかめをする	• きりくずの処理をさせる。 • OHPを利用して進める。 • 作者の考えを発表させる。 どんなイメージを大切にしながら切つていつたか、どんなところがよかつたか、又うまくいかなかつたか。（2～3人） • 各自再び画用紙で切り具合いをたしかめてみる。 • 修正するところなどをみつけさせる。
10		• 切る	• 自分のイメージを大切にしながら修正、補正などをさせる。
10	整理	• 作品について批評し合う	• 作者の考えをきかせる（イメージ・技法上） • みんなで批評し合わせる。

工　　場

美幌町立東陽小学校
第5学年　41名
指導者　原　　弘

1　教材観

国道39号線を網走に向かつて、美幌の街に入つてくると、左手に大きな煙突が見える。これが日甜美幌工場である。この工場は校下唯一の大工場で、働く人も少なくない。最盛期には、工場全体が煙と蒸気につつまれて、子供達も、その異様さに引きつけられて、ひとしきりクラスの話題となる。そこで、この工場を過日見学し、その驚きや感激を木版画によつて表現してみようと考えた。

木版画はどこの学校でも広く行なわれているものであるが、これほど差の大きなものはない。5年ともなれば彫ることについてさほど抵抗はないと思うが、児童の実態から考えてみると、ただ版を彫つて刷るという段階、特に、線彫りから早く脱出させ、白黒のバランスや彫り方を工夫して、木版独特の単純素ぼくなよさを表現させたいと考える。

2　指導目標

(1) 対象の観察やスケツチによつて、感動をありのまま表現する力をつける。

(2) 白黒のバランスや彫りあとの効果を工夫させて、木版画の特色を生かした版画をつくる技能をのばす。

(3) 計画的に且つ見通しをたてて仕事を進める。

3　指導計画

(1) 導入、スケツチ …… 1.5時間
(2) 下絵作り …… 1.5時間
(3) 版を彫る …… 5時間
(4) 刷る、鑑賞 …… 2時間（本時½）

4　本時の指導

(1) 目　　標

- 自分の作品を生かすための効果的な刷り方を体得する。
- ためし刷りをしながら、表現内容を追求する。
- 計画的に見通しをたてて仕事を進める。

(2) 準　　備

中性版画インク、木版、彫刻刀、新聞紙、西洋紙、孔版紙、ふき布、バレン、版画用具セット、作業衣

5　展　　開

学習の道すじ	学習内容	時間(分)	学習活動	主な発問と助言	児童の反応と方向づけ
表現	学習の確認	3	今日の学習の確認	• 今日は試し刷りをします • 用具をたしかめて下さい • 忘れた人の分は、グループで貸してやつて下さい	
	課題の追求・技法	6	刷り方について	• 参考作品を見る • インキのつけ方	• ローラーを何回もころがしてむらなく絵の具をつける • 版画には濃淡を考えてつける
		30	試し刷りをする	• 仕事の見通しをたてて刷る • 修正する所の確認 • 試し刷りをした作品をよく見て下さい	• バレンで強く刷りとる
		6	作品を見ながら話し合う	• 友達の作品を見て下さい • 上手にいつた点 • 失敗した点	• 感想を自由に出させる 刷り方 彫り方 白黒のバランス • 刷りの良い作品、わるい作品を見くらべて考える
整理		5	学習結果についてまとめる	• 修正するところがまとまりましたか • 刷りとり方がわかりましたか • 次の時間は、本刷りと鑑賞をします	• 修正するところの確認 • 次時予告

土のすず

小清水中学校
第1学年　45名
指導者　横田勇吉

1　教材観

人間が土との素ぼくなふれあい、それから生まれた数々の作品、土器・はにわ以来日本人の生活と焼き物は切り離せない工夫された日常の什器類への生活の知恵と、それを作つた工人の美意識、それは郷土の生活に密着しながら長い才月に磨かれて造形的にも美しいものとなり今日にも生き続けている。それは私達の祖先のあるいてきた歴史である。そしてそれを今、生徒に土と火と手という素ぼくで原始的創造活動をさせることは、科学文明の渦の中に生きる生徒たちに人間らしさを取りもどさせる手口になるのではないか。
粘土は最も造形の容易な材料であり、火をくぐること、素ぼくで美しいものにかわることを理解させ、一塊の粘土から自由な発想と作る喜びを、使う楽しさを与えたい。

2　目　標

(1) 粘土→焼きものに興味をもたせ理解させる。
(2) 手作りの楽しさを知らせる。
(3) 土と生活のむすびつきと先人の生活から生みだされたことを知らせる。
(4) 製作の完成や使用の喜びを味わせる。
(5) 粘土の性質を知らせる。

3　指導計画

(1) いろいろの陶磁器を見て陶磁器の正しい概念を理解させる。　1時間
(2) 焼きもののつくり方を理解する。手びねりを技法の中心に　5時間
手びねりは広い意味で型やロクロを使わず手で作る方法をいうが、ここでは、せまい意味で、ひもも板も作らず、まるめた粘土から成形することをいう
本時 $^{2}/_{5}$ 時間

4　本時の目標

(1) 粘土→焼き物に興味をもたせ理解させる
(2) 粘土を焼いて素焼のふる音のねに素ぼくなよろこびをしらせる
(3) 手作りの楽しさをしらせる

5　準　備

参考作品、粘土、芯玉（素焼）、新聞紙、粘土ベラ、チリ紙、スケツチブツク

6　展　開

学習の道すじ	学習内容	時間(分)	学習活動	主な発問と助言	指導上の留意点
イメージの形成	主題の確認	5	学習内容の確認	• 目をつぶつてごらん、何の音だろう。 粘土を、かため、焼くと音がする。素ぼくな音です。 素焼と土のすず	• 今日は何を製作するのかと期待をもたせ学習の概略を把握し、みとうしをつくる。
造形思考	課題の追求	10	製作の手順を知る	• どうすると良い音がでるか • 作業の手順　良い音 • よい心　良い音 • アンコ作り（中抜）	• 図表により製作順序を明示する。
表現		30	製作活動	• 芯の玉に紙を包む厚さが空洞の大きさをつくる • 肉の厚さが過ぎると軽い音が出ない • 外形の成形は手早く指先で粘土のかわかないうちに行なう • わり口の大きさが音の反響に意味がある	• 粘土の厚さが一定であること、外形が球形に近いこと • 机間巡視 • アイデアスケツチ • 紙がぬれているので粘土のかわきがおくれる • 生徒の家の廻りの土が入つている。私の土であることを確認する。
整理	つまづきの発見	5	製作終了作品の完成への期待	• 作業手順、作品を大事にあつかい良い音がでる事を期待する。次回の音くらべ大会の開催　教室用具の始末	

やまぞのの四季

東藻琴村立山園中学校
2学年　11名
指導者　今　井　龍　男

1　教材観

指導者としては、はじめ一枚ものの共同制作を意図し、大画面に耐え得る場面の選定を試みときおり生徒たちと話し合つていた。校下藻琴山の山麓に広がつており、ほとんどが牛によつて生計を営んでいる部落であり、酪農経営は基盤整備途上のため生徒たちも重要な労働力となつており、本校においては好むと好まざるとにかかわらず酪農は生徒たちの生活そのものともなつているのである。だから指導者としては最も生徒たちの生活に関連のある題材として酪農を意図し、ときには大きな画面を通して詩をうたわせ、夢をふくらませてみたいという構想で臨んでいたのである。しかし話し合いの中から「一枚ものでは家庭で彫れない」こと「一つの場面ではなく、いくつかの場面を彫りたい」という意見、希望が出て結局酪農の四季の姿を彫ることになり主題も決定されたのである。

生徒たちは版画だけでなく美術科の学習内容のすべてに対してかなり高い興味を示しており、版画制作に対しては小学生のときから毎年二度以上の経験をしており、生活化もすすんできている。そんな彼らが、はじめての共同制作でどんなとりくみを見せてくれるか、期待をもつてこの教材を取り上げたのである。きつと新しいなにかをつかみとり、そしてもう一歩のびてくることを祈りながら・・・。

2　目　標

(1) 酪農の四季の姿を深く見つめさせ、そこから受けた感動やイメージを大きな画面にのびのびと表現させたい。

(2) 主題に迫る表現のしかたを身につけさせたい。

(3) 協力の力のすばらしさを体得させたい。

(4) 新しい経験から、さらに表現意欲を高めたい。

3　指導上の注意

(1) 生徒の創意をできるだけ尊重し、教師の指導過剰にならないようにすること。

(2) いろいろな方法でイメージの深化、拡充につとめること。

(3) 研究的態度と話し合いの態度を助長すること。

(4) 主題に対する追求は各段階でさせること。

4　全体計画　12時間取り扱い

(1) 主題、分担の決定 …… 1時間
(2) 構図の研究 …… 2時間
(3) 原画制作 …… 2時間

(4) 下絵制作 …… 2時間
(5) 彫　り …… 2時間
(6) 刷　り …… 2時間
(7) 反省と評価 …… 1時間
（本時はこの中の最初の時間）

5　本時の展開

(1) 目　標

協力と話し合いの中で仕上げの作業をすすめる。

(2) 準　備

彫刻刀、ローラーセット一式、版画インク、バレン、用紙、スライド

(3) 展　開

学習の道すじ	学習の流れ	時間(分)	主な発問と助言	生徒の反応と方向づけ
受けとめさせる	スライドを見る 本時の学習課題の確認	5	○はじめに今日までの学習の足あとをふり返つてみましよう ○今日はいよいよ刷りの作業にかかります。	○スライドを見て、今までの経過を思い出す ○今日の課題をつかむ
考えさせる	ねらいの想起 刷りの研究 作業内容の説明	10	○もう一度グループ毎にねらいを思い出してみましよう ○だれかに一枚刷つてもらいましよう ○では次の作業の設明をしますしつかり聞いてください	○ねらいを思い出して発表する ○刷つた作品を見て効果的な刷りを理解する。 ○板書により作業内容を知る
実技させる	刷　る	25	○必ず全員に作業させる ○相談しながら作業させる ○衣服をよごさない注意	○グループ毎に刷る ○インクの濃度、バレンの使い方等を研究する
確かめさせる	作品についての話し合い、結果の確かめ 次時の予告	10	○一枚だけ作品をはつてください ○グループでできばえについて話し合つてください ○代表してグループの意見を発表してもらいましよう ○みなさんの意見を聞かせてください ○では今の意見をたいせつにして次の時間には修正をしてもつとよい紙に刷ることにしましよう	○一番よく刷れたのをはる ○グループ毎に話し合い感想と修正箇所をまとめる。 ○代表が発表する ○おたがいに感想をのべ合う。 ○もう一度グループで話し合う ○次時の課題をつかむ

(4) 評　価

○　話し合いの中で意欲的に作業がすすめられたか。
○　刷りの効果の確かめができたか。

人物デッサン

北海道美幌高等学校
美術クラブ　20名
永吉正彦
小穴良子

1　教材観

ここに20名の美術クラブのメンバーがいる。何れも趣味や特技を中心として友情を深めて各自の個性を伸ばしあい乍ら充実した学校生活の30時間を過ごそうと胸をはずませている（デザイン関係は別はレタリングクラブが設けられている）彼等は人物画のむずかしさがいやと言う程骨味にしみている。たしかに風景画や静物画は一寸位実際と似ていなくともおかしくはないが、人物画は目の前のモデルと顔がそつくりにならなかつたり、形などのデッサンがくるうと不自然さがその場で明確に判るからであろう。身近な人をモデルにすると描かれた人から似ているとか似ていないとか（特に顔が、女性の場合は下肢の肉づきを含めて）が問題にされ易いし、似ていないと他人からも何となく冷たく見られる気がしたり、自分でも下手だなあと落胆して、その為に画に関しても意欲を失う場合もありうる。

外形だけを正確に画くだけならば、カメラの方が効果的だし、時間的にいつてもはるかに能率的だといえる。人物画は対象人物の特徴や美を、主観というフイルターを通して表現させるものであり、性格や精神的なものが自然に表情や、体の動きに表われるのを、冷静にキヤツチすること――カメラとの相違――を明確に判別させる必要がある。テレビで散見するコマーシヤルの中のラングロワの橋の実景とゴツホの描いた同じ場所のものが、如何に相違するかは生徒の全てが頷ずくものであろう。これは亦、ドイツ美術史家であり博物館長でもある。レオポルト・ライデマイスター博士の著書「イル・ド・フランスの画家の足跡をたどる」の中で紹介されるコロー・ピサロ・ルノワール等の画と実景とを比較しても明らかであろう。

伊藤廉氏の言を借りれば「一つの作品の素描がしつかりしているかどうかは、その作品をささえている骨組みのようなもの、力のようなものである。デッサンするということは、対象をそのまま模写することではなくて、比例や奥行き・調子・つりあいなどを見て、美しい形や動きを作り出すことで、絵を成り立たせている最も大切な要素≪線・面・形・明暗など≫が、≪どんな様子になつていると美しいか≫を感じる目を養うことであり、≪形をつくるもの≫であるという意味で、すべての造形の基本になるものであることをよく理解させたい」とあり、納得させる内容であるが実際には生徒に理解させるかが問題となろう。

2　目　標――最終目標行動

(1)　全体のプロポーションをとらえられる。
(2)　表情・動作の特徴が把握できる。
(3)　性格・内面性が感じられ表現できる。
(4)　モデルの個性やムード・フイリングや自分の一番強く感じたものを中心にして人物を描く魅力が体感できる。
(5)　デッサンとは何かが一応理解でき納得できる。

3　指導計画

(1)　人物デッサン……（90分）
　Ⓐクロツキー（15分）対象の自由な動作から全体のプロポーションをつかみポーズをさがす。
　Ⓑデッサン（75分）顔と手の表情を第1のポイントにする。
(2)　彩色・完成・合評（150分）

営業品目

雪印牛乳・乳飲料・乳製品
アイスクリーム・冷凍食品・食品
調味料・包装肉・灯油・その他

北網雪販株式会社

網走市新町1丁目5番38号電話(代)④6281番郵便番号093

営業所　紋別市渚滑7丁目☎③3011番
営業所　営呂郡営呂町末広☎2886番

日本給食品連合会々員

豊かな食生活に貢献する網走食品流通センター

一般食料品・学校・病院・自衛隊・その他
団体給食並に業務用食品加工用原料資材

網走食料品卸株式会社

網走市新町3丁目6番3号　〒093☎(01524)代④7111

40才からは働き盛りの保健剤

サモンゴールドS

なお激しい疲れの時はサモンローヤル内服液をどうぞ・・

資生堂チエーンストア

カドカワ薬粧

只今資生堂花椿会員募集中

美幌町駅前通り　☎③2405

衣料品・おもちゃ・スポーツ用品
袋　物・釣　具

靴のデパート

アンド 4丁目 セントラル

美幌町北4　☎③5188

クスリと化粧品

の 平野薬局

保険調剤薬局　平　野　幾　郎

美幌町駅前

仕出し・弁当・旅行のお食事

うなぎの

若葉食堂

美幌町西1条北1丁目③5258

美幌でのお食事は　やまべ料理
帆立料理

HCB加盟店

レストラン **穂高**

美幌町民会館内③3906

北見教材厚生部
学校生活協同組合

北見市屯田西町３５４
電話　北見④2717

教育図書・教育用品・図工・美術教材
理料・技術材料・スライド・知能検査用紙

道東地区総合販売店

㈱杉山商会北見出張所

本　社　帯広市西９条南14丁目　☎代③3155
出張所　北見市中の島町50番地　☎③4446
連絡所　釧路市白金町５　☎24－3557

最高の設備・完全な製品

樹脂凸版・オフセット・タイプ印刷

新しい時代を拓く

株式会社 アート印刷

本社工場　美幌町東３北２役場裏　☎③4747
津別営業所　津別町大通（おがた質店）☎⑥2848

学校緑化事業に

自然と人間の調和に奉仕する

株式会社 ササキ種苗

卸　部　北見市三輪卸売団地　☎⑥5514
小売部　北見市大通西５丁目８　☎③3383

旅館

東藻琴館

東藻琴市街　電話２６番

全国皮膚病薬研究会員

志賀薬局に

皮膚病薬をお任せ下さい。

薬剤師　志賀泰亮

網走市南４条東３丁目　☎③2776

書籍・雑誌・事務用品
学校教材・文房具・玩具

太中元商店

中元信広

網走都東藻琴村中央区　☎142

憩いのオアシス　魅惑の館

スナック　バイカウント

網走市5条1丁目　浜長ビル
☎④5560

落着いた店御一人で皆さんで

SNACK BAR
麻耶

網走市南3西2　ツカサビル2F
☎④8207

絵のある気軽な店

スナックバー

ロンシャン

北見市6条西3
☎④4596

しつとりした雰囲気の美女の園

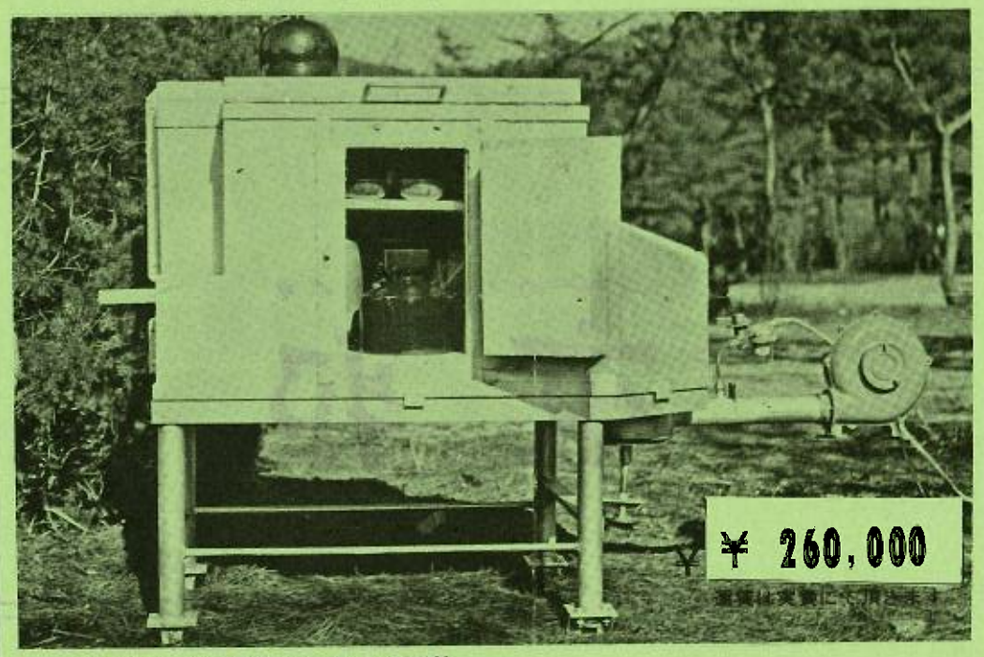
スナックボンバ

網走市南3西2　ツカサビル2F
☎④8203

べんてる 倒焔式 陶芸窯

倒焔式 陶芸窯は、学校教育用として、また、作陶愛好家のご製作を考慮し、大学窯業試験所、消防庁等、斯界の権威の先生方のご指導により、最高品質を用い、安全性の高い耐久性のすぐれた経済的な高性能の窯でございます。

楽焼、陶器、磁器の焼成が、学校で、ご家庭でたのしんでいただけるものと自信をもって、おすすめできる製品でございます。



倒焔式 陶芸窯の７大特徴

①燃料は灯油を使用するので経済的です。

②窯材各部の製作にあたり安全性を強く考慮してあります。

③燃焼室を設けましたので、窯内の温度差がありません。

④温度調節が思うままにできるので、あぶり、せめだき、ねらしが容易にできます。

⑤特許（出願済）のバーナーは一度の点火で消えることがないため、気化ガスによる爆発もなく、空冷給油方式のため、バックファイヤーもありません。

⑥ダンパーの取付けにより、酸化焔焼成、還元焔焼成が簡単にできます。

⑦本体の脚部に車輪（キャスター）をつけたので移動に便利です。

⑧停電時、自動給油装置付

小路食品株式会社

北見市常盤町２丁目

☎③7331

外科・内科・胃腸科・整形外科

網走中央病院

院長　有里伸一

網走市南６条東１丁目　☎③2363④3079

患者用　☎③3706

ヌーベル油絵具特約店

事務器機・文房具・書籍・雑誌

太ヒサダ紙店

網走市中央名店会(☎③3825③4467)

教育図書・ホルベイン
児童図書・洋画材料額

フジヤ書店

網走市南4条東1丁目　☎③3186

クサカベ絵具・画材・書道用品

株式会社 **㊥網走文化堂**

網走市南4条東6丁目☎③4577

貸　画　廊

銀座画廊

絵画・書道・写真・手芸
グループ展などに御利用
下さい。

北見市3条3丁目銀座通り
☎③4416

バレー教授場

こまどり舞踊会

北見市3条東1
☎③3846

菅沼歯科医院

院　長　菅　沼　寛
副院長　菅　沼　優

北見市２条西４丁目　☎③3556　③6842

画廊とボーリング場設備

湯元　大江本家

電話　温根湯2511（代）

別館　湯　元

電話　温根湯2611（代）

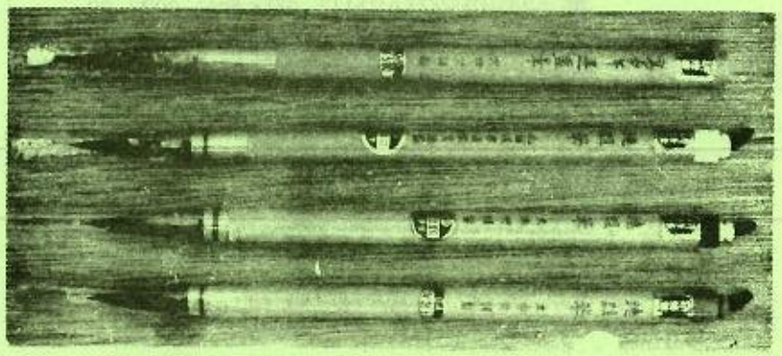
温根湯温泉

北海道書道教育連盟推せん
北海道造形教育連盟推せん

良質な筆、最高に書き易い筆です

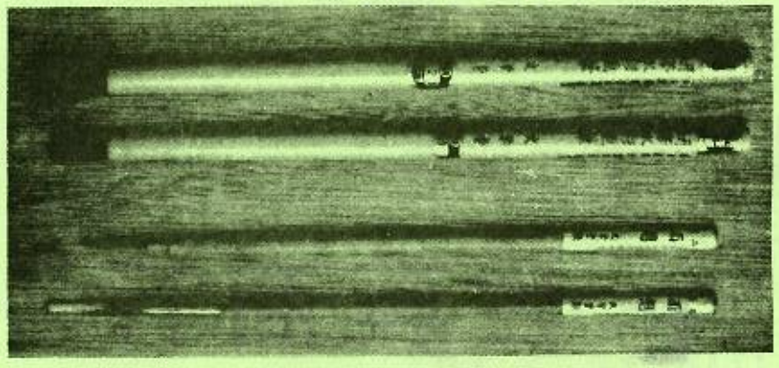
青森県書写書道教育研究協議会推せん筆

書　研　筆　●　連　盟　筆



高学年用
¥ 600
低学年用
（初心者用）
¥ 400
¥ 300

全国書画諸先生用水彩画筆



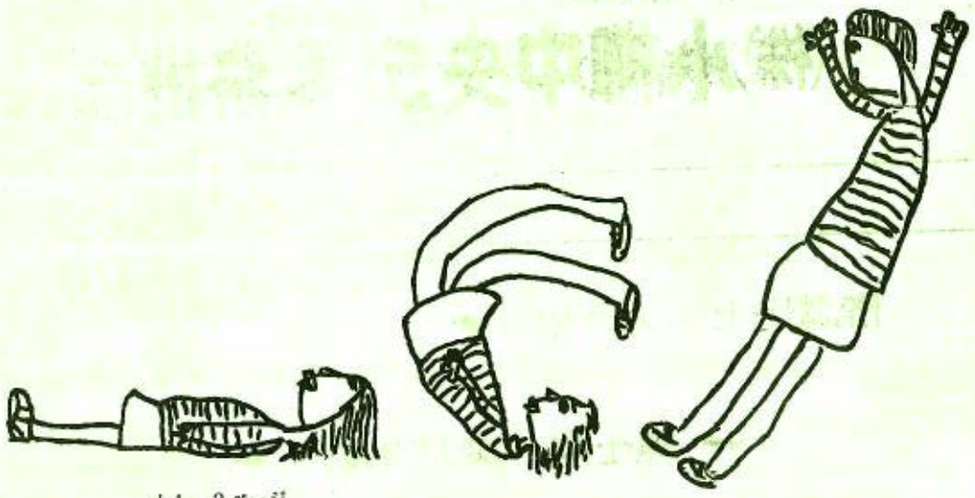
研修水彩画筆
大¥ 150
中¥ 120
画想画筆
¥ 100

文学堂製筆株式会社

本社　広島県安芸郡熊野町・支店　東京・旭川

道内有名文具店にて取扱っておりますのでお申し出ください。

祝　第２４回大会



小１－３ページ

Tosyo

東京書籍株式会社北海道支社

札幌市中央区南１条西３－８（札石ビル）
〒０６０　☎札幌（011）241－8987－9

本社＝東京　●支社＝札幌/仙台/名古屋/大阪/広島/福用　●出張所＝函館

提　言

分 科 会

分科会	領域	司会者	提言者
幼稚園	絵画	斉藤幸子（函館松風幼稚園） 天野和幸（帯広聖公会幼稚園）	井戸信子（札幌苗穂保育園）
小学校 A（1.2年）	絵画版画	石丸雅晟（室蘭東園小） 辻井秀郎（江別第二小）	伊藤暢紀（札幌教育大付小）
小学校 B（3.4年）	絵画版画	山口重俊（網走南小） 中川真一郎（檜山江差小）	狩野鉄男（網走小） 神田耕治（上川協和小）
小学校 C（5.6年）	絵画版画	吉田義晴（網走滝上小） 亀浦忠夫（根室花咲小）	斉藤純一（網走越川小） 阿部　将（釧路桂恋小）
小学校 D（全）	彫塑	池本良三（胆振苫小牧東小） 船着昭弘（札幌豊水小）	森戸春樹（帯広大空小） 岡沼淳一（帯広柏小） 大越哲也（十勝下人舞小）
小学校 E（全）	デザイン	藤井正治（稚内中） 青葉不二雄（苫小牧日新小）	佐藤　靖（札幌琴似小） 青山清輝（空知岩見沢小）
小学校 F（全）	工作	金子　正（苫小牧清水小） 今内　優（網走本岐小）	西村正義（網走上湧別小） 木村典義（旭川神楽岡小） 紙谷　恒（旭川千代田小）
中学校 A	絵画版画	森　県蔵（網走活汲中） 伊藤善彬（江別二中）	青野昌勝（室蘭東中）
中学校 B	彫塑	畠山三郎太（網走一中） 岡崎公輔（北見上常呂中）	寺島文憲（札幌柏丘中） 有我定雄（網走滝上中）
中学校 C	デザイン 工芸	瀬下信行（北見東陵中） 稲船正男（釧路東中）	成中康男（網走東藻琴中） 田中　潤（札幌信濃中）
高等学校	美術クラブ	中村矢一（札幌月寒高校） 土岐禎次（札幌北高校）	安孫子公治（根室中標津高） 渡辺芳夫（北見柏陽高）

5 才児にみる観察表現

（おたまじゃくし）

提言者　札幌市・苗穂幼稚園　井戸信子

テーマ

こども達の生活環境は、主として工場や商店になつているため自然がとぼしく、小動物にふれる機会も少なくなり、そこで保育園でも手軽に飼育できるものとして、〝おたまじゃくし〟をえらびました。〝おたまじゃくし〟の外形は造形的にみて単純な組合せのように思えるが、観察し抽画する中に観念的な感覚から脱皮しやすい要素が存在すると思われます。

目　的

- 一見単純と思われる対象物に対して注意力を養う。
- 大きく表現するよう指導する。
- こどもの創造力（オリジナリテイ）を養い自然にふれる。

準　備　画用紙（四つぎり）パス

一日目のすすめ（導入）

みなさん、おたまじゃくしのお家は、どこにあるのかしつていますか。

「うん、お池だよ」「小さい川だよ」

お部屋のおたまじゃくしは、どんな形をしているカナ……。

「足がでてきたよ」「シツポをクニュ　クニュしておよいでる」「チヨツトすきとおつてるよ」

こども達は、それぞれ自分の経験を話し出します。又お部屋で飼育している〝おたまじゃくし〟を当番の時等を通して特徴をとらえていたようです。

きようは、みなさんに〝おたまじゃくし〟をかいてもらいます。

「うん書こう」「早く書きたくなつちやつた」

〝おたまじゃくし〟についての話し合いをした後〝おたまじゃくし〟を観察しやすいように、ビーカーに入れて各テーブルに置く、4人1グループのこども達は頭をすり合わせながらのぞきこんでいる。おたまじゃくしの歌がとびだす。前もつて用意した画用紙をくばりパスで書く。ひととおり書き上げた作品について話し合います。

○○ちやんのおたまじゃくしは

「目が横の方だね」「足もあるよ」「泳いでる、シツポがクニヤ、クニヤしている」

「頭の所がすこしすきとおつているんだよ」

日常接している事もあり、わりあい特徴もつかんでいたようです。親しみもあり形が単純であつたせいもあり、スムーズに書きはじめました。

二日目のすすめ

きのうかいた〝おたまじゃくし〟をお池につれてつてあげようか。

「うん、花も書くんだ」「おたまじゃくしは、はつぱをたべるんだよね」

こども達は、それぞれの考えで、草、山、花等をつけ加えながら書きました。

「カエルも書こうか」「うん、はつぱもいるよ」

等と、こどもどうしの対話も出て来る。

図工科学習の中で表現意欲を どのようにして高めたらよいか

提言者　網走市立網走小学校　狩　野　鉄　男

はじめに

最近の子どもは、物事を〝合理的に〟？処理しようとし、深く考えたり、じつくり見つめたりする態度に欠ける。こんな言葉をよく耳にし私も言わない事もないが、しかし、子どもばかりの責任ではないと思われる。図工科が他教科の中でどの様な関連を持つているのか、物質、情報のはんらん等の社会環境、教師の指導姿勢などいくつか阻害の原因になつている。「先生出来ました。」「何んだこれは、描き足りないぞ。もう一度！」

子どもは、大まじめで、全部色がぬつてあるのにどうして先生は認めてくれないのか困惑の様子。教師――子ども――友だちの間に何んの結びつきもない。こんな場面を想像すると何んともやり切れない気持ちになる。こんな事では図工教育は出来ないと思う。そこで子どもたちが主体的に取り組んで行ける様な物をとらえ、取り組んでみた。

1　描く意欲

発想とか、意欲の換起とが絵画指導では、大切な指導項目であるが、これ等はもつともつと子どもの身になつて考える必要がある。子どもたちは、何を望み、どんな事物を描こうと欲しているかという問題である。教師は子どもの実態をよく知つた上で、（真の子どもと一体となつた心情のふれあいがあつて）始めて、主体的な表現活動が生まれて来るものと思われる。

6月3日N児が、イラクサについた毛虫を学級に持ち込んだ。「蝶になるかも知れないな」N児をはじめ子どもたちの目は、興味しんしんであつた。その次の日曜日からは、子どもたちにせがまれて野山へ出かける事になつてしまつた。6月9日、キマダラヒカゲ7匹、ヒメウスバシロチョウ5匹、サカハチチョウ3匹、カラフトヒヨウモン等々、中でも、ミヤマクワガタが10数匹とれた事が話題の中心になり翌日から飼育観察が始まつた。

この子たちは、1年生の時の授業研究で「エビ」を描いた事があり、ミヤマクワガタを観察したり遊んだりしている内に、このクワガタを描いてみたいという意欲にかきたてられていつた。

2　題材の価値感を高める

オタマジャクシ、サンショウウオ等、小さな生き物が学級に持ち込まれた。また、それと併行して、図鑑等で調べる子も出てきた。本州方面では、ミヤマクワガタや、オサムシ等見られない種があるなどを知つた。「また、私たちが飼つたつて、そんなに長生きさせられないよ。」といわれて早速描きたいといいだした。

3　表現するために

「想像や、空想の絵を描く。」この題材の中で話し合いの結果「未来の都市」を描こう、という事になつた。その中に「ミヤマクワガタをどうしても入れたい。」という子どもがおり、その事をみんなで話し合つた。「都市がどんどん発展して、現在の都市形体とすつかりかわつたとしても、虫たちは変らないだろう。」という事で、その町にミヤマクワガタを入れておこうという事になり、虫が止つている面白い構成になつた。

4　関連させ発展させて行く必要性

ミヤマクワガタが互いにけんかしあい、はさみ殺されたりして子ども達は大さわぎになつた。また、ひとりでに死んでいくものもあつた。生残りの少なくなつたクワガタをみて、いまの内にもう一度描いておきたいという意見があり、生きている内に描いておこうという事になつた。前にもふれた様に、この子たちが一年生の時、「えびをかかしたのであるが。」その時は、えびが大変高い値段だつたために、「見るだけ」「なるべくさわらない様に」等々注意したことがあつたが、今度は、自由であつた。虫をとり出して遊ぶもの、頭や胸などのばらばらになつたものなどを見たり、さわつたりして2作目の作品が出来上つた。みんなで合評をしてみると、まだまだミヤマクワガタのはさみの形や全体の形顔や胸、胴などの大きさ、色などについて問題点があつた。ここで終つてはいけない。せつかく育てて観察してきた経験を、今後取り組もうとしている他領域でも取り上げて行かなければならないと思つたので、子どもたちとも約束しておいた。7月のはじめ学級の黒い毛虫は、さなぎからきれいな蝶になつていた。（コヒヨドル）また、桜の木の間を大きなエグ白蝶が、ふわりふわりと飛び交い、子どもたちの興味も自然の中にとけ込んで行く。また、何かの概念をとらえて真剣に取り組ませてみたいものである。

おわりに

絵画は、あるものをこく明にかくだけが目的だとは思つていない。子どもたちとの関連や交流がなければならないと思つている。物を見つめそれを自分でとらえ主体的に迫つていかなければならないものであり、身近なもの、郷土的なもの生活の場などから、子どもたち個々が自分を通してどう表現して行くかにあると思う。教師と子どもたちとの結びつき、子どもたちと自然物友たちの関係なども一体となつてはじめて真の目的が達成されるのではないだろうか。

低学年（構想図）　　高学年（観察画）

基本過程	指導過程	指導過程
発想	○ 経験想起 ○ 題材決定 ○ 本時目標	○ 意欲の換起 ○ 題材決定 ○ 本時目標
計画	○ 場面決定 ○ 情景想起 ○ 構成する ○ 用材確認	○ 速写 大小　方向 動勢　重心 ○ 用材確認
表現	○ アイデアスケツチ ○ 彩色 （技法） ・色の工夫 ・用具の扱い	○ 特性の把握 ○ 下絵の決定 ○ 彩色 （技法） ・色の工夫 ・用具の扱い方
吟味 修正 合計	○ 見もどし （再確認） ○ 修正加算 ○ 目標到達度 ○ 長所の確認	○ 見もどし （再確認） ○ 修正加算 ○ 目標到達度 ○ 長所の確認

本校の絵画指導の問題点とその指導

提言者　斜里町立越川小学校　斉藤純一

1 はじめに

畑作純農村、辺地小規模校の本校は、地域的に美術的環境や刺戟に乏しく、絵画に於いても単調な形式的表現に終ることが多かつた。

その原因を地域的な特質として押しやることは出来ないと考え、2年前に5～6年生を受持つことになつたのを機に、指導の中でその解決をさぐることにした。

2 単調さ、形式的、概念的表現を破るために（仮説）

何かを絵に表わそうとする時、その「何か」は人間の内的な思考や興味、感動などによつて熟成されるものであろうと思うが、それらが表現されるまでの過程に於いて技術、手法のたすけがなければならない。造形表現を技術と創造性に分けて考える時、現代に於て重視されるのは創造性であろうが、本校に在つては、技術、技法面に於いて、指導上の問題があるのではないだろうか。又自己の内的な興味、関心（表現意欲）も新しい材料や技法の提示や自からの発見とかかわりがあるのではないかと考えた。

以上の観点に立つて、実践の可能性を考慮し児童の実態と対応しつゝ指導を試みた。

3 指導の試み

(1) 「手で考える」ということ。

事物を写生するとき、或いは想をねる時、本来は内的な高まりを伴て後、表現活動（手を動かす）に入る訳であるが、思考錯語の過程があつてもまず手を動かそうとさせる。その中から構想をまとめさせる。

(2) 角度を変えて見る。

見なれた事物だからよく描けるとは云えない。むしろ形式的、概念的な表現になることが多い。角度を変えて見ることによつて、新しい感動と意欲を起こさせる。

(3) 表現材料と技法を考える

鉛筆と筆と水彩えのぐだけでなく、他の材料はないか、又それらの併用はどうかを考えさせる。（クレヨン、クレパス、墨、フエルトマジツク、ローソク等々）

表現に適切な方法を考えさせる。（ぬる貼る、切る、ひつかく、など）従つて筆だけでなく指、木片、ナイフなどにも向けさせる。

4 反省とまとめ

大きな変容はないが、児童の作品は変りつつある。以前よりは意欲的にもなつて来た。指向するところに間違いはないと考えるが、ここに挙げたことが解決の全てではないことも承知できる。今省りみて、この程度の実践は、ありきたりのことだと思う。提言に意味を持たないことを恐れるものであるが、参加諸先輩の御指導を希うものである。

標題絵画指導におけるフローチャートの作成

提言者　釧路市立桂恋小学校　阿　部　　将

子供達には夢がある、個性に応じた願いや活動が大きな輪になつて創造活動に無限の広がりを誇示している。そこに教師は、子供達の夢を要求を育てる指導を設定しなければならない。つまり指導計画実践の確立をめざさなければならない、創造性、造形等については、多様な論理と実践の過程で結びつきを究明し古い歴史的背景に基本的な姿を表示している。しかし今日的課題は、創造性の育成は指導的論理性に立つたものではなく日常活動の学習活動過程をどのように実践化し解決することが大きな問題として重点化されてきているのではないか、その実践化のためには創造活動の基本的にして具体的な構造性を組織立てられている仕組みを本授業過程で的確にとらえ適切な過程と設定、その手段を与えなければならないと考える。我々は基本的には授業の流れを夫々の児童の実態と教育目標との基本的な形態内容から調整され実践過程が設定されるのである。①、課題（次予告題材への位置）、②、計画と準備、③、導入、④展開、⑤整理、⑥、発展的課題。

学習結果を新しい学習に発展させるためには教材選定が最も大切な要素として位置されるであろう。そこに子供達の願いが満たされ創造意欲が盛んに湧き、豊かな発想が生じるよう考えられ指導のパターンが形成されるのである。表現構想の具体化をはかるための表現技法や表現構成等を把握し学習の成果が夫々の感覚的な能力によつて完成へと導びかれていくのである。そして新しいタイプへと適応され創造感覚の世界を拡げていくのである。個々に生じる感覚活動は個が主体である当然の姿である。したがつて個性に応じた指導と個別化の指導が生じるのであつて、その活動を如何に最適性をめざすかと云うことではないか。しかし個性化はあるが教材の精選化、構造化（組織化）・指導過程などについては確定的な実践論理を簡単に立証することは困難である。また確立させることは容易ではないのである。例えば前述した指導の流れについてもまた方法についても学習結果に導くまでには相当な論理と実践の巾が解決までに違いをもつのではないか。また機器等の活用と評価についても種々な異論と方法が解決までに受けとめ方に相異が認められるのである。これは夫々のもつ主観的な世界が強い個々の教師とまた教科のもつ特性から基本的な問題を掘りさげていかなければならないので急速に解決されるものではないようである。そして現在迄取り組んできた指導案には幾多の問題点が提起され整理しなければならぬ実状にあるのではないか児童の豊かな可能性を教師の理想実現一筋に誘導することは危険ではないだろうか、私は今日迄の過程を反省するとき恐ろしさを憶えるのです。児童は児童のもつ審美要素によつて指導内容を取捨選択するのであつて、教師はつねにひとりひとりの願いを適応化しながら刻々と変化する個々の反応的適応度に設定される授業内容に応じて教師の指導が適切化されなければならない。そのために充分な具体的準備計画が大切になつてくるのである。したがつて私の実践理論（フローチャート）が規定路線に指導過程を統一するためにあるのではなく、実態に応じて

ひとりひとりの願いを発展実現させようとする事象から取り組んだ次第であります。現段階までの問題事項は、(1)、目標設定の範囲と取りあげかたに不明瞭な内容で設定していたことである。(2)、ひとりひとりの個性伸長に工夫しようとする具体的な堀り下げをせずに全般的なおおまかな設定である。個性の適応化をみのがしがちな組立てをしていたのではなかつたか。(3)、授業過程を不充分な流れとしておさえ、多数の改善の要因な補はないままに構造化設計してしまい、狙いとすることに的確に迫ることが容易でなくなつてきていた。(4)、機器の効果をどの過程で設定してよいのか正しい利用に対する研究がなされず、道具に追いまわされている。(5)、評価の仕方に対する研究が具体化されないままに次課題の設定をしなければならない。以上の反省点に立ち図工科のフローチャートを作製してみる。教師の授業に対する見方考え方を浮きぼりにする実験的造形ともみられるでしょう。ここでは指導方法の改善、授業の構造化の見地からフロチャートについて初歩的な考察を進めてみようとした。「資料は別紙プリントにする」項目を列挙してみる。

1　指導方法ごとのフローチャート

(1)　原形、6時間の学習内容を項目ごとに区切切つて図式化したもの。（小四）

(2)　指導方法のちがい（1、共通する目標はあるか。（2、指導方法の違いによつて、フロチャートがどう変わるか比べてみる。

(3)　指導計画のなかでの時間単位で変化する実態。

2　単元、題材の全体計画を流れ図に表現してみる

(1)　指導案形式の全体計画

(2)　全体計画のためのフローチャート

3　指導計画細案のためのフローチャート

4　む す び

1. 表現の仕方の違い
2. 全体構成、項目の設定、記号の使用形態等はフローチャートに対する考え方見方をあらわしている。
3. 題材、主題により流れ図にちがいが出てくる。
4. 指導型、学習型、折衷型に類別することができる。
5. 児童生徒の主体的な活動にあわせてわかりやすくあらわすということがだいじな点である。

＜問題点と課題＞

1. 指導の流れから順序性、段階ごとの区切りなど構造的にとらえること。
2. 指導法・主題の扱い方は教材解釈によつて形が生じる。つまりフローチャートとして骨組みを表現する。
3. 表現しにくいものは、児童個々のアイデア、方向性、特長に基づいて活用される情報や媒体の多様性、これらに対する教師の対応の仕方などがあげられる。

（個人指導に関する問題）

4. 児童の個人的美意識を前提とした教科指導の問題（つまり授業のシステム化も含めての問題点も含まれる）
5. 教育機器利用開発も今後の課題であろう。

＜参書文献＞

(1)　新しい指導案の作成（授業のフローチャート入門）教育出版

(2)　教育工学の原理と方法（教授学習におけるシステム観）明治図書

(3)　電子計算機利用におけるフローチャート（教育工学研究委員会）

地域の素材をどのように生かし造形表現を高めるか

＜彫塑＞粘土

提言者　十勝造形サークル代表　大　越　哲　也

彫そ学習を通して、児童の様子を観察すると非常に活発で、生き々きした児童の欲求は大変に高い。したがつて当然学習を通し生まれた児童の彫そ作品がのびのびとした、望ましい作品であつてほしいと思うのだが、実際は願望のみに終つている。そこで、地域性にかかわるものの一つとして、もつと地域性をふまえて進まなければならないと思う。最も身近な子供達の身辺に目をむけさせるところから発展させたい。

子供達をとりまく生活環境の中に美しいものを探ると、自然の変化、友人、仲間関係の意識のもとで友情、食物、何気なく使つている道具地域の文化遺産等は数かぎりなく存在する。その中に、彫その素材として粘土ほど各地の子供たちと密接に生活の中にとけこんで親しみのある素材で、その特性を知り、各地域の自然の素材をよく見つめ、子どもたちが素材として受けとめ易い素材を選びたい。

十勝の粘土　＜成分＞

普通山の崖、あるいは水辺の地面の断層などから、よく灰白い、あるいは、ねずみ色の粘土「硅酸礬土」を見受ける。それらの土を指の先でひねつてみて相当のネバリがあつたら、そのまま使用できるとされています。又、枯葉色の土や黄色土でもネバリさえあれば使われています。しかし、赤みを帯びた土は火に弱いのが欠点です。すなわち鉄分火山灰が多くはいつているわけで、良質の物がない場合は他の耐火力の強い土を少量まぜると、効果的です。ネバリのない場合は他のネバリの多い土と調合すると成形がしやすい反対に分子が細かすぎネバリが強いと細工はしやすいが乾燥中、あるいは焼成の時キズが入りやすいから荒い分子の土を適当に加えてやらなければならない。以上のことを基にして、十勝の粘土の成分を探ると道内各地より産出する粘土と変りなく耐火力が低く、漂積粘土が中心として各地に分布している。焼成した場合（1,200℃）ガス発泡を生じ、黄赤色をほどこす。一応楽焼はできる状態にある。尚、1,200～1,500℃に焼き上げると粘土は解けてアメ色に変化する。それで耐火性を補うため内地の産地の耐火性のある粘土と混合しねり上げて使用している学校が多い。道内の耐火性の強い粘土は洞爺にあり（ＳＫセーゲル26番）その粘土とまぜあわせると焼成がよい。

低学年彫そ指導の素材としては道内の粘土はほとんど使用できる状態にある。乾燥と保存の場合は良質粘土を使用するようにしている。焼き物の粘土としては、耐火性がない所の粘土については補強のため耐火粘土を使用している。ひびわれを防ぐためシャモットを使用する。

地域の粘土を使うためのくふう

土の作り方（成土）

産地より選び出すのにかなりの労働力がかかると思います。手近かな所より産出する場合はよいが、ほとんど遠地から車で採取しなければならない。そこでＰＴＡの協力とか学校予算の中で必要量の粘土を採取するか計画をたてることが大切でしよう。

自分の土地の粘土を成土化して使用する事が手数がかかるので市販されている粘土を使う学校が最近ふえているようです。しかし、子供たちが土こしらえに苦労するほど、土に対する考えも変り、土に対する愛情まで考えなくともそれに近い土に親しみを感じとるぐらいまでに指導はできるのではなかろうか。専門的な成土の作り方でなく、子供たちで出来る範囲の成土つくりをさせることにより成形の段階で粘土の質感量感を早くつかむ事に役立つ。

成土のつくり方

1. 山から堀り出した粘土（荒土）を一度よく日光で乾燥する。
2. よくつきくだいて細まくする。（フレットミルないとき）
3. ふるいにかけて荒い分子や小石ごみを除く。
4. 水の中に粘土を入れる。
5. 水の中の砂ごみをとる。
6. よくこね合わせて陶土にする。
7. 土をねかせる。

〔例〕　問題になる事で粘土のうきくだきに時間がかかる事とほこりが立つので、大樹町立野塚中では、秋に粘土を採取して冬に粘土をこおらし春夏にかけ粘土を、乾燥させると、粘土が粉末に自然乾燥ができる。粘土の成分は変りなく成形焼成ともよい。

十勝の粘土の分布と粘土成分標本を持参しますので、ご参考にして下さい。

プリント・標本→生粘土と焼成粘土・作品成分各地

粘土学習の安易さを目ざして

提言者　紋別郡上湧別小学校　西　村　正　義

1）　発想とねらい

Ⓐ　今日、いろいろな素材を使つて、手と簡単な道具で、物を造るということは、経済的に見て、意味を失つていると見る人が多い。但し、このような経験が、子どもの成長にとつて、極めて大切である。

Ⓑ　しかし、工作不振の声は強い。不振の原因にはいろいろあろうが、教師を含めたおとなの側に責任があると思われる。

Ⓒ　特に、彫塑（粘土学習）では、粘土が無い。高価である。粘土板、粘土べら、貯蔵がめ、焼成の資材がそろわない等に加え、粘土の取り扱いがおつくうであるという理由から、敬遠され勝ちのようであつた。

Ⓓ　これ等の事は、頭の切りかえさえすれば解決する事が多いと思い、私が取り組んで来たことを提言する。

2）　粘土はどこにでもある

Ⓐ　先住民の跡をたずねて。

道内至る処から、先住民の土器が出る。先住民はいつたい粘土を、どこから得たのであろうか。たいていは、彼等の住んでいた近くから求めたようである。

Ⓑ　炭焼ガマの跡をたずねて。

明治以来、開拓にたずさわつた人々は、炭焼ガマを粘土でかためた。そこには、良い粘土があるはずである。

Ⓒ　谷地（湿地）をたずねて。

湿地の下には、水の不透層がある。不透層は粘土であるはずだ。

3）　粘土はどれでも使える

Ⓐ　粘土を握つて、かたまり、それがくずれなければ、粘土学習の材料になるはずである。

Ⓑ　かげ干しして、くずれないものは、素焼にすることができるはずである。

4）　やきガマ、うわぐすりも、くふうできる。

……etc

「何を教えるかから何を育てるかへ」

提言者　旭川市立千代田小学校　紙　谷　　恒
旭川市立神楽岡小学校　木　村　典　義

1　はじめに

旭教研の研究は昭和47年度までは絵画を中心としていろいろな方向から研究が進められてきましたが、昭和48年度より今年度にかけて工作、工芸領域を手がけることにした。

工作、工芸領域においては従来より幾つかの問題点が指摘され、昭和47年まで各学校独自に研究が進められてきた訳であるが、昭和48年度は「工作、工芸学習における指導の手だてを実践的に明らかにする」をテーマに、動く工作の題材を通して幾分でも機構的な工作の諸問題を解決していこうと願い進めて、昭和49年度は、先年度の結果をふまえて、「工作、工芸領域における内容の整理と授業実践による確かめ」をテーマとして、何を教えるかから、何を育てるかにせまることにした。

2　S48年度研究概要

(1)　教材の再吟味（精選）

子どもの「表現意欲をもり上げるような題材」を視点として、過年度旭教研が作成したカリキュラムにもられている工作、工芸の題材の再検討を行なつた。

(2)　共通題材の設定

今日の大人が子ども時代に見られなかつたがん具がインスタント化してきている。しかも吾々はただ買つて与え、作つて与える事が少くなつてきている。子ども自身が子どもなりに、自分の手で自らの遊びの中に役立てる材料を求め、丹精こめて作ること

に本研究の意義があり、図工美術の使命と考える。子ども達が思う存分遊ぶことによつて、自らの楽園をつくり出して行くことは極めて大切である。従つて「動く工作、工芸」に焦点をしぼり研究をすすめることにした。

(3)　指導の手引き作成

手引き作成にあたつて、従来よりの幾多の問題を下記の5項目におさえ、手引きを作成した。

①　事前指導が充分行われなかつたため、意図した材料が集まらず、子どもの意欲を失うことがある。

②　題材を提示し、問題意識をもたせたつもりでも、計画を立てるのに多くの時間を費し制作するのに時間が不足する。

③　子どもの夢が表現活動の中に充分生かせない。

④　材料、用具の不備、機能や技法を考慮しなければならない面があつた。

⑤　購入が不便、費用がかかりすぎる。

その他の理由で実施できないことはないか。

(4)　結　　果

①　教師は指導のよりどころがはつきりした。

②　子どもと一緒に考えていける。

③　誰もが（教師）が同一レベルで指導ができる。

④　路線にのせすぎると同一の結果になる。

何を考えさせ、何を育てるかをはつきり区別しなければならない。

3　S49年度実践研究

(1)　研究の視点

①　何を教えるかから何を育てるかへの積極的な取り組み。

②　造ることによつて連帯感を造ること。人のよさを豊かにみとめ合えるものを。

③　幼児の指導から、小学校の積み上げ。

(2)　取りくみ

①　造形活動を誘発するような題材の開拓。

②　制作過程の重視と表現方法の多様化。

③　造形要素の体系化と関係化

（具体的研究内容については、別紙レポートで提出。）

≪きりえ≫の教材化の試み

提言者　網走・東藻琴中　成　中　康　男

1　であい

新聞のグラビアや雑誌のカットなどで以前から心にとめてはいたものの作品として、「いいなあー」としみじみ感じたのは、滝平二郎さんの「きりえ画集」に出あつた今年の正月休みのことである。中国の伝統的紙工芸の中に<せん紙>があること、影絵や三味線のリズムにあわせておもしろおかしく紙を切つていく<切り紙>があることは知つていたものの、身近なものとして、そんな表現があることに気付き、感動したのは、近年にない出来事であつた。しかし、その時点では、子どもにやらせて見ようとか、指導計画の中に組み入れようとかの考えは全くない。ただ、シャープなカッターの切れと素朴でユニークな独特の味を感じ取りながら、画集のページをめくるばかりであつた。冬休み中でもあり、多少の時間的余裕が幸いして、自分にも出来るかも知れないと恐る恐る手を出したのが、教材として子どもにぶつけるキッカケとなつた。初めて作つた三枚の作品を並べながら、半分ほど切りかけた残りの仕事を三学期はじめの放課後、美術室で続けていると、子ども達が集つて来た。「おもしろそうだな」「簡単に出来そうだな」「きれいだなー」…　中には、全くのお世辞を意識した言葉もあつたが、興味と関心を示す目なざしを見てとつた。

2　子どもにぶつける（その1）

何しろ初めての教材である。何をねらつて、どうぶつけるか困つた。一応の手順だけは話したが、あとは、滝平さんの画集と、つたない自分の作品の中から感じ取らせ、奮起してもらわなければ授業は成立しない。

<手順と留意点>

(1)　下絵づくり～画面いつぱいに堂々と広がつていること。

(2)　墨入れ～白・黒のバランスを考え、墨画を描く感じで……。図柄のつながりをくふうする。

(3)　切りこむ～下絵にしばられるな。カッターの切れ味を楽しめ。

(4)　完成の喜び～切りあがつた絵を白い紙の上にパット置いた時の喜び。下絵とのちがい。

<結果・反省>

①　熱中して取り組んだ：一応満足げであつた；①初めての経験、②過程の段階に変化がありあきない― エンピツ― 墨― ナイフ― はる、③カッターの切れに面白さを感じる、④下絵の時より良く見える良さがある。（パターンと面の統一）

(2)　テーマの不明確さ：教師の教材感が確かでないためから来るテーマの理由づけが明確でない。（何を発見させたり、追求させたりするのか）

(3)　系統的な押えが出来ていない：①白黒のバランス・調和の基礎練習、②陰・陽の技法と主題とのかかわり。

特別の子をのぞいて、ほとんど予定された時間（下絵－3、切りこみ－2、はる・鑑賞－1）内で完成し、ほぼ満足げなようすであつた。しかし、テーマの問題と画一的なパターンに関する疑問が残つた。

3　子どもにぶつける（その2）

(1)　草花とチョウ（1年～基礎練習）

自然の観察と素描を1年生の描画の主な基礎練習にしていることもあつて、これを<きりえ>にさせて、この中で基礎的な技能の訓練をさせる。

- 素描をイメージにそつて画面構成をさせる。
- テーマの持つイメージと白・黒のバランス（陰・陽のとらえ）
- 素描と図柄のつながり
- カッターの扱いと切り抜きの技能

(2)　自然の中の私　（2年）

日常、自然にとりまかれて生活しているにもかかわらず、自然に対する興味や関心がうすい。前教材で扱つた自画像を発展的に利用させ、草・花やチョウ・虫などに取りまかれている自分を意識的に表現させ、自然と自分とのかかわりや、草・花に対する興味・関心をおこさせる。

- テーマにせまる画面構成のくふう・態度。
- 白、黒のバランス（陰、陽、強、弱）
- 無理のないシャープなカッターの流れ

4　まとめ（提言）

(1)　きりえの教材的価値

(2)　テーマ性（与え方・とらえ方）

(3)　ジャンルのこと。（きりえはどこに入るのか）

ポスターの制作・授業実践に考える

提言者　札幌市立信濃中学校　田　中　　潤

―はじめに―

ポスターの制作はデザイン学習の中でも多く取り上げられる題材である。ところがデザインとは何かと考えてみると解らなくなつてしまう。人間は社会の中ではじめて人間として生きていける訳だが、そのためにコミュニケーションが必要であり多くの形で実現してきた。デザインとは人間ひとりひとりがしたいと考えていることを、形あるものにしていくまでを指すのではないかと考えている。ポスターは情報を大衆に視覚的に伝達するための手段である以上個人と社会のつながりを考えなければならず、制作過程では、いろいろな基礎的なデザインが応用され、いわば前段階的な学習が必要であり、個々によい結果を上げても、ポスターの制作自体には必ずしも生かされない題材であることは興味深い。

――実践例〝訴えるポスター〟――

流れ

いろいろな技法の習得 ― レタリング
↓
ポスターについて考える
↓
テーマを決める
↓
アイデアスケッチをする
↓
レイアウトをする
↓
制　作
↓
鑑　賞

――前段階的な学習はどこまで必要か――

ポスターの制作では、構成、配色等の基礎的な力が生かされなければならない。いきなりポスターを制作させると説明的な絵と文章的な言葉の並列されたものになつてしまいがちである。もちろんポスターの役割、条件等をおさえた上で制作を進めるのであるが、構成配色練習として単独でおこなつたものにはおよばない。ポスターの制作は、このような基礎的なデザインの力にささえられなければできないものなのだろうか。授業では技法の拡大とレタリングをおこなつたが、それぞれではよいものを作つていながら実際の作品の中に生かされた例は以外に少なかつた。

――デザイン学習としてのレタリングの疑問点――

レタリング学習でたいせつなことは、文字を見る人間の立場になつて書体を考えることにまちがいないだろうし、ポスターの制作ではどうしても必要となつてくるものなのだが、本来的なデザインとは違うように思える。字のバランス、読みやすさ、美しさを考える前に情報伝達の媒体として考えること、つまりシンボルやマークの体系的なものとして考えられることがたいせつだと思う。シンボルやマークの学習であるならば、ある程度可能なのだろうが、ここでは単体として複合体として調和が保たれる文字にするにはどうしたらよいかという学習から抜け出せなかつた。

――テーマの設定について――

テーマは限定したほうがいいのだろうか。あるいは条件をつけた上で自由に選択させたほうがいいのだろうか。今回は〝訴えるポスター〟ということで社会問題からごく身近な問題まで、今いちばん訴えたいことということで選択を自由にした。しかし、ポスターを制作する場合、絵画、彫塑のように個人個人で対象にかかわるのではなく、あくまで社会というものを考えなければならない。実際には多くの制約や条件のもとに制作される訳だから、共通テーマのほうが、観点をおさえた評価もやりやすく、お互いの学習効果も高められるのだろうが、生徒の興味とか感心という点でどのように考えていつたらよいのだろうか。

おわりに

前にも述べたが、ポスターの制作以外のデザイン学習では、構成、配色等よいものをつくつていながら、又指導時間も充分とつていながら、完成された作品は案外、成果が上らなかつたのはどうしてだろうかということが私の卒直な反省である。デザイン学習の生命ともいえる発想し構想したものを制作の中にどれだけ実現できるかがポスターと限らずデザイン学習のだいじなところである。ところがポスターは完成があまりに技術的な力に左右されてしまうように思う。ポスターの制作はレイアウトまでとよくいわれるのだが、完成作品が子供達の満足のいくようなものにするには、制作の過程をどのように組んでいつたらよいのだろうか。

授業をした上での個人的感想という形でしか書けなかつたことをお託びいたします。

課外クラブ活動（美術関係）と『必修クラブ活動（美術関係）』との関わりあいをどううけとめるか

提言者　北海道中標津高等学校　安孫子　公　治

昭和４８年度から週１時間以上全生徒に履習させることが義務づけられた「全生徒必修クラブ活動」と放課後から下校時までの間に実施されている「自由選択制部活動」との間にいろいろな問題点が生じている。学校によつて単線型（現行クラブの拡張）か、あるいは複線型（２本立て）のいずれかを採用しているようであるが、予算その他もろもろの関わりあいの中で美術の部活動も「美術関係の必修クラブ活動」との関わりをどのように今後受けとめていけばよいだろうか。

１　クラブ活動の一般的な価値をさぐつて

(1)　個性の伸長のために

教科、科目の学習における不充分さを補うため生徒の好み、興味、関心、趣味を中心とした活動をもつて生徒の「自分を生かす」欲求を果してやる。

(2)　興味、関心などの共通性の高まり

選択の幅の少ない集団の中で自主性、自律性による自らの計画の樹立と実施で得られる成果の味いとか、集団活動の喜びや苦しみの経験によつて養われる社会性を得ていく。

(3)　豊かな将来の生活に向けて

余暇を生かして「使う態度」がつちかわれる大きな価値をもつ。

２　必修クラブ活動の方向性を打診してみて

(1)　学校の教育活動としての位置づけ

自由選択制部活動の将来は、現在の学校教育の守備範囲が広過ぎることから本来の教育活動の不充分さ、又は学校の行なう仕事の精選などから、特に安全管理などの責任下にあるクラブは学校外の社会教育活動として位置づけなければならないという見方があり、文化系クラブ活動についても同様な方向で考えられようか。

(2)　必修クラブ活動へ、やはり、部活動を移行させるのが将来的な成り行きとなろうか。

(3)　生徒または教師にそれぞれ高い技術性を要求されるものなどあつて必修クラブ活動の範囲では困難なものについては別個にせざるを得ないということからすれば、必修クラブ活動と併存せざるを得ない一面も残されているのではなかろうか。

(4)　部活動との運営との差異の比較はあつても（下表）目標や方針についてはやはり同一であろうと思われるかどうか。

運営／名称	性格	履修	教師	運営費	管理	活動時
必修クラブ	授業	必修選択	担任	公費	学校	授業時間
課外クラブ	授業外	自由選択	顧問	生徒会費	生徒会	放課後

(5)　施設、用具の使用、経費、評定などかなり問題点も多いようである。（別紙調査）

(6)　指導者からみて、また生徒からみてそれぞれ問題点も多いようである。（別紙調査）

３　課外クラブ活動をかえりみて

(1)　年間計画（活動内容等）

ア　現行の内容はどうか。（油彩、水彩、デザイン、版画、イラスト等々）

イ　高文連関係の出品、文化祭の展示、写生旅行、その他日常の活動内容など挙げられるが計画に即して展開されているか。

ウ　鑑賞活動はどうか。対外的範囲で他作品の鑑賞の機会を計画的にたてる。（高文連関係展、移動全道展、各種展等の例）

エ　制作活動内容の取決めは生徒本意に任せてよいか。生徒の要望として、

A　当然ながらクラブ員の自由な選択内容で制作活動したい。

B　基礎的デツサンのような例のものは部員一斉に行なう場合等あつてよく、顧問の指導を望む。

C　課外の時間を軽視する向きはやめ、また顧問は制作の進ちよくを見守つてくれ。

(2)　その他の活動状況・運営

ア　造形活動の意欲性（自由選択による入部員だけあつて傾注性大。美術科目選択生以外の生徒の加入と活動）

イ　クラブ人数と指導体制（少人数程、指導の浸透性も多いように思われるが）

ウ　進学準備として（造形関係大学）技術を身につけるためにクラブ活用する生徒。

エ　他クラブ流出等で質的水準の面はどうか。（高文連出品へ恥かしくないくらいに）

オ　作品搬出入ないし大会参加に関わる旅費、その他の予算はどうか。（クラブ規定）

カ　クラブ昇降格問題はどうか。成立人員数及び予算の確保など。（クラブ規定）

キ　施設設備・用具・消耗品等はどうか。（授業と併用、消耗品の自己負担限度等）

ク　部屋はどうか。（有無、広さ、併用、独立、冬季の暖房、その他）

ケ　必修クラブとの関係でその他全般において問題点になるものに他どんなものが。

美術クラブのあり方について

提言者　北見柏陽高等学校　渡　辺　芳　夫

こゝ数年間の美術クラブ（部と呼ぶ）は内容形、活動等に関して変つて来ているという声をよく耳にします。構成メンバーの男女比や活動内容が個人のものとなる傾向が多いこと。さらに文化部門での静かな活動として、なかなか生徒会活動の中で全体のものとなりえない、必修クラブとのからみあい等があげられているようです。

いわゆる文化活動の中での美術の占める位置はかなり大きなものがある反面、正課として授業の中にくり入れられ充実した学習がなされている学校が少ないことが根本的な問題といえるでしょう。場所、予算、部員数等部の抱えている問題は必然的に起りうる結果なのです。でも活動そのものゝ「表現する」という意欲は特に若い人達にとつて大事な分野として現実には種々の困難を克服しながら日々地味な活動を続けられているのです。

さて、私の学校での部活動はといゝますと、本来地味な活動である中でも陽性な部門と陰性な部門が考えられますが、どちらかというと後者に該当すると思われます。毎日放課後特定の生徒が石膏を相手にコツコツとデツサンしています。全校的な行事（中間発表、文化祭等）の前には部員が相互に連絡をとつて油彩を完成し展示します。それがすむと又、デツサンを続けます。寒い北見の冬の中でもこの活動は継続されます。この活動について行けない者は自然退部ということになります。このひたむきな活動の意味（目的）は何かといゝますと受験なわけです。現在受験のための石膏は殆んど置いてあるわけですが、本年は或る大学で石膏デツサンをとりやめたことなどからとまどいが出て来ています。展示のときは記名を表示しません。さらに展示することよりも合評会に時間を多くとつて関心のある生徒を大勢集めて論議をかわしています。

描く雰囲気を自分達で作り、その中にひたることにより多少自己誇大型の者も出て来ます。でもこれはこれなりに意味を持つていると思います。平均的部活動に落着くことは直ちに活動不振を招くことになると思います。特徴ある部活動を相互に確認し大切にし、その高揚にお互いが努力する中で個人の技量を中心に語り合える雰囲気が生まれゝばそれで充分だと思います。目的は夫々に異る中で排他的にならず、お互いを大切にすることが出来る部活動であればいゝわけです。

お祭りのための演技者としての部活動ではなく、毎日の技能の積み重ねとそれを中心とした語らいこそが真の部発展につながる重大な基盤でなくてはならないと思います。

この活動が定着し先輩から後輩へと受け継がれて行く中で種々の技能的な分野の開拓、将来への語らい等々が無限にうまれてくるのではないでしようか。

顧問はその雰囲気が恒久的に持続されるように心をくばるオブザーバーでいゝわけです。

教科との関連はきつぱりと断ち切る必要があります。此の事はやゝもすると併行されがちですが結果は両者の衰退につながると思います。それぞれの意味を生かし特徴を持たせることによつて、より発展が見られるのではないでしようか。今日も生徒は部屋で石膏デツサンをしています。学校がある限りこの活動は永久に続くでしよう。

※　参考、管内美術クラブ現況（高文連網走支部）

学校	部員数・男	部員数・女	部員数・計	活動人員・男	活動人員・女	活動人員・計	活動日（時間）	活動場所	指導者の有無	勤務時間外指導	生徒会予算	個人負担	困難点
A	15	6	21	15	6	21	月—土 17:00	有	有(専)	自主	円 45,000	円 120	予算不足 部屋がせまい
B	14	32	46	8	20	28	火・木・金	無	有(専)	許可	30,000	400	部屋なし、道具保管場所なし、個人負担多い
C	3	19	22				月—土 18:00	有	有(兼)	許可	50,000	1,500	美術室ない 指導者がいない
D	6	25	31	1	10	11	月—土 2時間	有	有(兼)	許可	32,000	4,000	予算、場所
E	9	12	21	1	9	10	火・金 17:00	有	有(兼)	許可	24,600	4,000	場所道具不足
F	3	7	10	3	7	10	水・土 18:00	有	有(専)	自主	34,930		展示場所がほしい
G	0	10	10	0	9	9	木・土 17:30	有	有(兼)	自主	30,000	4,000	予算不足、指導者
H	1	9	10					有	有(専)	自主（同好会）			
I	9	11	20	5	7	12	月—金 17:00	無	無	禁止	18,000	800	指導者・用具不足 部屋なし
J		13	13		13	13	不定 17:30	無	有(専)	自主	12,120	3,000	用具場所不足 キヤンバスがたりない

記念講演　　7月31日（水）（12:40～14:40）

「たしかな表現力と未来に生きる子どもの造形教育」

東京和光大学教授　藤　沢　典　明　氏

MeMO

閉会式　　7月31日（水）（14:40～15:00）

○開式のことば
○大会委員長のあいさつ　第24回全道造形教育研究大会運営副委員長　小　松　　厚
○大会地区の謝辞　オホーツク造形教育連盟事務局長　菅　原　隆　治
○次期開催地区代表のあいさつ
○閉式のことば

全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

札幌市立西野小学校　辻　　悦　平記

- 第1回（札　幌）　情操教育の一環として本道図工教育の進展をはかるため。
- 第2回（札　幌）　美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭　川）　美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函　館）　図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧　路）　図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札　幌）　造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室　蘭）　のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小　樽）　図画工作学習によつて児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯　広）　新段階における造形教育のあり方
- 第10回（網　走）　本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝　川）　子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名　寄）　子どもが生活を見つめて造形的に高まつていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余　市）　子どもが生活を見つめて造形的に高まつていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札　幌）　子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚　内）　〃
- 第16回（室　蘭）　〃
- 第17回（函　館）　指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）　〃
- 第19回（札　幌）　造形能力は、どのような指導によつて育てられるか。
- 第20回（旭　川）　ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札　幌）　造形能力は、どのような指導によつて育てられるか。
- 第22回（帯　広）　未来に生きることもの造形教育（生活に根ざした造形表現をどう高めるか）
- 第23回（室　蘭）　未来に生きることもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか。）
- 第24回（美　幌）　未来に生きることもの造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか。）

※第25回　大会は江別の予定で目下準備中

第24回全道造形教育研究大会役員

✡参　　与	三木　　公	（美幌町教育委員会教育長）
	古賀武治	（オホーツク造形教育連盟顧問）
	小路　　隆	（　〃　　〃　）
✡大会委員長	高橋栄吉	（北海道造形教育連盟委員長）
副委員長	近江幸之助	（オホーツク造形教育連盟委員長・美幌町立東陽小学校長）
〃	棚川音一	（美幌町小中学校長会会長・美幌町立北中学校長）
✡運営委員長	近江幸之助	
副委員長	矢野　　清	（美幌町教育委員会次長）
	中村知久	（オホーツク造形教育連盟副委員長網走西小）
	小松　　厚	（　〃　　〃　網走津別小長）
	佐藤秀雄	（　〃　　〃　地区委員網走置戸中長）
運営委員	菅原隆治	（北海道造形教育連盟副委員長・ホホーツク造形教育連盟事務局長・網走東藻琴中長）
	木村晴一	（北海道造形教育連盟監査・網走、北見東陵中）
	山越定照	（網走教育局）
	豊島　　豊	（網走、美幌田中小長）
	金山尚三	（網走、美幌東陽小）
	神　　清美	（網走、美幌東陽小）
	高橋　　鐐	（網走、美幌北中学校）
	宮川和夫	（網走、美幌小学校）
	鎌田　　博	（網走、美幌中学校）

✡紀要編集部

◎中村知夫（網走西小）
○畠山三郎太（網走一中）
山口重俊（網走南小）
狩野鉄男（網走小）
山越定照（網走教育局）

✡研究部

◎森　　県蔵（活汲中）
○横田勇吉（小清水中）
平山　　弘（興部中）
岡崎公輔（上常呂中）
瀬下信行（北見東陵中）
畠山嘉康（斜里日の出小）
畠山三郎太（網走一中）
橋本　　弘（東陽小）
高橋　　登（　〃　）
菅原幸喜（　〃　）
猪谷憲博（興部秋里小）

✡授業部

◎小松　　厚（津別小長）
○菅原隆治（東藻琴中長）
吉田義晴（滝上小）
加藤美寿恵（東藻琴小）
大場正三（東陽小）
大橋　　茂（　〃　）
菅原幸喜（　〃　）
笹木祐二（　〃　）
赤塚　　修（　〃　）

授業

山宮喬也（東陽小）
黒河洋輔（　〃　）
新藤　　勇（　〃　）
原　　弘（　〃　）
山本正美（　〃　）
三宅良平（美幌都橋小）
横田勇吉（小清水中）
今井竜男（東藻琴山園中）
永吉正彦（美幌高校）
岸浪睦子（美幌幼稚園）
高橋真知子（　〃　）
山田初穂（　〃　）

提言

狩野鉄男（網走小）
斉藤純一（網走越川小）
西村正義（網走上湧別小）
成田康男（網走東藻琴中）

司会

山口軍俊（網走南小）
吉田義晴（網走滝上小）
森　　県蔵（網走活汲小）
畠山三郎太（網走一中）
岡崎公輔（北見上常呂中）
瀬下信行（北見東陵中）
今内　　優（網走本岐小）

✡記録部

西村重治（美幌中）
白根　　勇（　〃　）
松木生時（　〃　）
河瀬　　渉（美幌北中）
星　　謙司（　〃　）
富士政雄（美幌小）
柴田義弘（　〃　）
水谷紀生（　〃　）
伊勢賢治（　〃　）
山本信子（東陽小）
橋本　　弘（　〃　）
滝口恵美（　〃　）
加藤美恵恵（東藻琴小）
内藤栄子（北見三輪小）

○事務局長

金山尚三（東陽小）

庶務部

大橋　　茂（東陽小）
藤井孝子（　〃　）
側瀬正夫（　〃　）
滝川　　亨（　〃　）

会計部

金山尚三（東陽小）
板垣　　武（　〃　）

渉外案内部

神　　清美（東陽小）
山下　　修（美幌小）
大場正三（東陽小）
木村正昭（美幌北中）
夏井敏夫（美幌中）

○会場部

会場係

赤塚　　修（東陽小）
山下信子（　〃　）

富田久年（東陽小）
笹木祐二（〃）
佐藤栄和（〃）
高橋　登（〃）
受付係
板垣　武（東陽小）
大場正三（〃）
沢辺敏吉（〃）
元村経子（〃）
大橋　勲（美幌小）
古沢　博（〃）
前川満夫（〃）

中村　武（美幌北中）
沢田　繁（〃）
佐藤知義（〃）
接待係
佐藤洋子（東陽小）
P・T・A（〃）
○事業部
菅原隆治（東藻琴中）
中村知久（網走西小）
内藤栄子（北見三輪小）
金山尚三（東陽小）
神　清美（〃）

昭和49年度北海道造形教育連盟役員名簿

委員長	高橋栄吉	（札幌宮の森小長）
副委員長	石崎義政	（室蘭大和小長）
	菅原隆治	（東藻琴中長）
	川村恒夫	（江別乙中）
	大谷勝美	（置杵牛中）
	近江幸之助	（東陽小長）
監査	小山田　武	（釧路北中長）
	木村晴一	（北見東陵中）
事務局長	辻　悦平	（札幌西野小長）
庶務会計	種市誠次郎	（札幌中の島小）
部長	広報部長　吉田広任	（札幌篠路中）
	渉外部長　中川大三	（札幌羊丘小長）
	研究部長　金井秀雄	（札幌幌西小）
	事業部長　松島輝男	（札幌元町北小）

顧問

繁野三郎（札幌市）
藤野高常（札幌市）
宮村繁雄（教育大函館分校）
上条雄也（教育大旭川分校）
寺井信一（札幌市）
畠山三代喜（教育大札幌分校）
藤川　基（〃）
朝倉力雄（旭川市）
野村英夫（札幌市）
新妻　清（〃）

赤石武士（札幌市）
加藤　彬（根法華小長）
泉　秀雄（旭川小長）
砂金　隆（札幌市）
和田芳郎（〃）
伊東将夫（〃）
佐藤哲夫（札幌啓明中長）
荒木アイ（札幌市）
滝村虎雄（鹿部幼稚園）
斉藤一雄（札幌市）
橋本　富（〃）

教育設備助成運動参加商品

断然群を抜く

ギター描画材

ギターペイント
ギターパス
ギターくれよん

どんなものにも良く書ける

マジックインキ®

雨に流れず水に消えない!

Magic ラッション Pen
Magic プラチック Pen

ギターえのぐ
マジックインキ 本舗

寺西化学工業株式会社

教育設備助成運動参加商品

日本工業標準規格表示製品

個性ある作品！

サクラ陶芸用品で

文部省教材・教育設備基準品

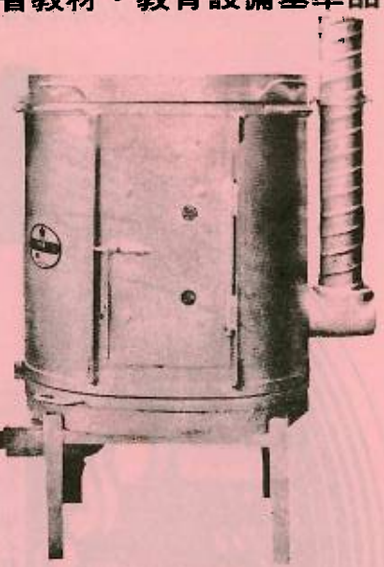
サクラ焼窯40・60・80型

〈特　長〉

●サクラ焼窯は永年の研究により生れた最も新しい石油式焼窯です。自動点火の特殊バーナ使用により操作が簡単です。素焼、楽焼から陶磁器の本焼焼成まで可能です。燃料が石油（灯油）ですから電気・ガス（プロパン）と比較して燃料代が極安で焼成を楽しめます。

●台脚、底板、本体、上蓋等に、分解出来窯の移動が容易です。

ヤキガマ50A



・40型（直焔式）　本・楽焼用
13,800 円運賃実費（ヤキガマ40A）

● 60型（倒焔式）　本・楽共用
160,000円運賃実費（ヤキガマ60A）

・80型（倒焔式）　本・楽共用
電磁ポンプ付225,000円運賃実費（ヤキガマ80A）

サクラ焼窯温度計

オンドケイA

●サクラ焼窯で力作をお焼きになる時、大事な作品の素焼をこわしてしまわぬように、楽焼の色をとばさないように、本焼の色を美しく出すために焼成する焼窯専用の温度計です。

●楽焼用 ―― 20,000円 ―― （オンドケイA）
●本焼用 ―― 100,000円 運賃実費 ―― （オンドケイB）
・本・楽共用 ―― 60,000円 運賃実費 ―― （オンドケイC）

SAKURA
株式会社サクラクレパス

大阪　〒537 大阪市東成区中道1－10－17　TEL 大阪 (06) 972－1241(代)
東京　〒101 東京都千代田区三崎町3－1－16　TEL 東京 (03) 263－4221(代)
札幌　〒160 札幌市中央区南四条西13－1314　TEL 札幌 (0122) 36－4487(代)

祝　第２４回全道造形教育研究大会

完備された
教材・
研究資料群

図画工作
学習指導書
教科書研究編
指導編
フォノシート
ケース入

教科書
図画工作
全６巻

造形ニュース
B5判 16～24ページ
造形教育の問題点の特集，教材研究ほか

図画工作
指導事例集
写真と図解で構成する指導事例360を学年別6巻に編集
A変型判　72ページ
今秋発刊

造形教育大系
全21巻
既刊「工作工芸の基礎」に続く基礎シリーズ
各領域を網羅
今秋より逐次発刊

版画の共同制作
―その見方と指導―
日本教育版画協会編
B4判 80ページ上製
¥2800

新しい 指導事例集
―図画工作科―
既刊　低・中・高学年用
全3巻　各¥880
B5判　104ページ
145指導事例
既刊

造形双書
新書判　既刊3冊
以下続刊
各¥250～450

造形資料
時代の多様性に対応して，授業改善の資料を随時提供　各¥200
刊行中

続図画工作
指導資料集
低・中・高学年用
全3集　B3判
携帯用ビニルケース入各¥3500
既刊

図画工作トランスペアレンシー
OHPのソフトウエア
学年別　全6集
今秋発刊

新版図画工作
指導資料集
児童作品の複製と，指導のための図解を大型版に集録　全6集
今秋発刊

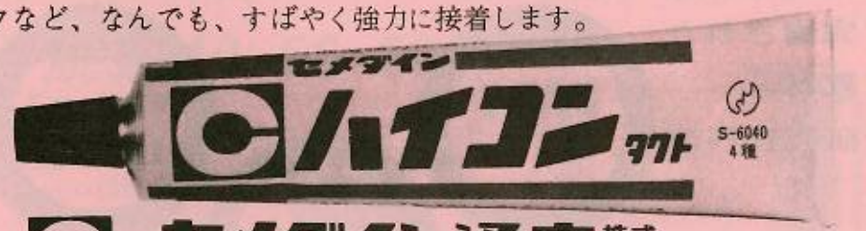
開隆堂出版株式會社

北海道出張所
札幌市中央区南1条西4丁目　日之出ビル6F　TEL. 231－0403

安全接着剤

セメダイン ハイコン タクト

セメダインハイコンタクトには毒劇法で定められた、トルエン・酢酸エチル・メタノールなどは一切含まれておりません。
安心して使わせて下さい。
両面に薄くぬって貼り合せるだけで、ゴム・皮・木・紙・プラスチックなど、なんでも、すばやく強力に接着します。



セメダイン通商株式会社
東京都品川区東五反田4-5-9 TEL(445) 1311

陶芸・七宝焼・彫塑・彫金・版画の材料と用具
陶芸教室・彫金教室・七宝焼教室

普通石膏A級・樹脂入石膏・鋳型用発泡石膏
硬質石膏・耐熱石膏等専門家用の石膏も用意してありますので御利用下さい。

素材・用具・技法の相談等
にお気軽にお立寄り下さい。

有限会社 北陶社 造形センター
札幌市中央区南13条西7丁目 T 521-4776・4667

丸石石膏株式会社北海道特約店
美術出版社サービスセンター特約店

おしゃれの店

カワムラ呉服店
網走市南4条西1丁目 ☎③2992

勤労者みんなの銀行 ろうきん

北海道労働金庫

北見市四条東三丁目 ☎③7431

室内装飾
広告美術

ヒグチ工芸社
あばしり南6東1
☎③－2953

伊藤歯医院

院長伊藤正通

北見市1条西3丁目（和光ビル）☎③2017・③3985

吉田歯科医院

院長吉田光寛

北見市4条東4丁目　☎④8815

外　科・整形外科

竹江病院

院長竹江静明

整復師　百武良秋

北見市駅前　☎③2916

祝　第24回全道造形教育研究大会

東和産業株式会社

専務取締役　大本久信

東藻琴村北区　☎ 70

新刊書籍・雑誌専門書・文房具

大丸屋書店

美幌町大通北一　☎③3040

美と健康と幸せと

雪印乳業

堀川乳品販売店

美幌町仲町１丁目　☎③2424

酒類・タバコ・家庭燃料専門店

サンマートチエン

㈱ 田村商店

網走市南８条東１丁目　☎(代)④7221

文具・雑誌・書籍
小間物・化粧品・洗剤
玩具・雑貨・卸小売

日光堂　ひかりや書店

卸小売部　網走市南５西４　市外局番〈01524〉３－2146
卸　　部　網走市新町19　市外局番〈01524〉３－2643

８桁仕事をやろうじゃないか〈スリムなポケット計算機〉

８桁こなして１５，８００円

あなたの日常計算機がキヤノンから登場。さあ、計算機も８桁時代です。
〈スリムなポケット計算機〉
８桁こなして１５，８００円のキヤノンパンサーをどうぞ。

Canon パームトロニク LE-83 PANTHER

¥15,800

専用ACアダプター（家庭用電源）¥２，０００

文具・書籍・雑誌・おもちゃ

いそざき

美幌町大通北１　☎③2030

教育用楽器は

YAMAHA ZEN-ON で奉仕する

特約店 (有) 生駒楽器店へ

美幌町大通北３　☎（01527）③5255

結婚披露会場

呉竹会館

網走市南6条西2丁目 ☎④6083

旅館・食堂

佐々木

東藻琴市街 ☎ 103・133

額縁と画材の専門店

東京堂

北見市2条西3丁目 ☎④4150

ダイト

東藻琴市街 TEL128

六本木美粧院

斜里町本町 ☎③2255

北見の夜をお楽しみ下さい

豪華ショー２バンド演奏

club 回航

北見市５条西３丁目☎④9676☎④ 3544

白黒からカラーまで

印刷センター

道東印刷株式会社

網走市南６条東５丁目☎代④5268

祝 第２４回北海道造形教育研究大会

●小学校　図画工作

●中学校　美術

●高校　美術・工芸
商業デザイン

●姉妹会社 ㈱秀学社
図工美術の参考書

デザイン・美術ノート・美術研究と整理
美術の学習・美術の鑑賞
スケッチブック・クロッキー
鑑賞画集・美術トランスペアレンシー
図工掛図・工芸(全四冊)

日本文教出版株式会社

〈東京支社〉東京都中野区新井１－２－１６
ＴＥＬ（03）３８９-４６１１　〒１６５
〈札幌連絡所〉札幌市白石区平和通り７丁目北１０３
ＴＥＬ（011）８７１-４５６４　〒０６２

あなたのセンスを生かす
新鮮で豊富な衣料品

小間物・文房具・玩具のデパート
楽しいお買物の散歩道

ショッピングセンター

ビホロ町シン町1 ☎③2197・③2198事務室③3306

藪そば
天婦羅
釜めし

かね久

美幌町新町2 ☎③2906

○御盆には先祖の霊をなぐさめましょう

仏壇・仏具大量入荷しています

(金物一般)

㊦ 前田商店

美幌町仲町1丁目 ☎③5241

名代 生そば
丼物各種

千両庵

出前
迅速

美幌町仲町 ☎③3215

全道造形教育研究大会

24